

はじめに

近年、グローバル化や情報化の進展とともに、社会が急激に変容する中で、子供たちを取り巻く環境も大きく変化し、それに伴い児童生徒の健康課題も多様化、複雑化しています。このような健康課題の解決を図るためにも学校における健康教育は重要な役割を担っています。

がんについては、生涯のうち二人に一人がかかるといわれる中、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は、まだまだ不十分であり課題であると指摘されております。この課題解決のためには、学校教育を通じて、がんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができる児童生徒を育成することが必要であります。

また、埼玉県がん対策推進条例が平成25年12月24日に公布・施行され、その中でも、学校において、がんの予防の推進を図るため、児童生徒ががんに関する正しい知識について理解を深めるための教育に関する施策が講じられ、学校における健康教育において、がんを取り上げた教育を推進することは、非常に重要であると考えております。

さらに、平成29年3月に小学校及び中学校、平成30年3月に高等学校の学習指導要領がそれぞれ改訂され、中学校及び高等学校においては、がんについても取り扱うことと新たに明記されたことから、新学習指導要領に対応したがん教育の普及・啓発が必要であります。

このような点から、埼玉県教育委員会では平成27年度から、文部科学省の委託事業を受け、「がん教育総合支援事業」を実施しております。

具体的な取組としては、学識経験者、がん専門医、がん経験者を含めた「がん教育推進連絡協議会」を立ち上げ、本県のがん教育の推進に向けて指導・助言をいただきながら、教職員を対象とした「がん教育指導者研修会」や小学校・中学校・高等学校のモデル校における「がん教育授業研究会」を開催いたしました。

本報告書は、「がん教育総合支援事業」における令和元年度の取組の概要や成果等についてまとめております。すべての学校において、掲載しております指導実践例等を活用していただき、教職員の共通理解の下、家庭や地域の専門機関等と連携を図りながら、がん教育の充実が図られることを期待します。

結びに、本事業の円滑な推進に御尽力いただきました、一般社団法人埼玉県医師会、埼玉県公立小学校校長会、埼玉県中学校長会、埼玉県高等学校長協会、さらには授業を御提供くださいました川越市教育委員会、川越市立霞ヶ関小学校、深谷市教育委員会、深谷市立川本中学校、県立志木高等学校をはじめ各関係機関、団体の皆様に深く感謝申し上げます、御礼とさせていただきます。

令和2年2月

埼玉県教育局県立学校部保健体育課長
伊藤 治也

目 次

I 令和元年度埼玉県「がん教育総合支援事業」

1	趣旨	1
2	事業内容	1
3	実施内容	1
4	他部局・他機関との連携	3
5	事業の成果	3
6	課題	5
7	令和2年度の事業について	5

II 令和元年度埼玉県がん教育指導者研修会について… 7

III 令和元年度埼玉県がん教育授業研究会

1	川越市立霞ヶ関小学校	23
2	深谷市立川本中学校	38
3	県立志木高等学校	52

IV 令和元年度埼玉県がん教育推進連絡協議会について

1	がん教育推進連絡協議会設置要綱	62
2	がん教育推進連絡協議会委員名簿	64
3	がん教育授業検討委員会名簿	64

I 令和元年度 埼玉県「がん教育総合支援事業」について

1 趣 旨

学校におけるがん教育の充実を図るためには、がんに関する正しい知識と正しい認識、命の大切さについて正しく理解させ、深めることが必要であることから、本県では、学校におけるがん教育の推進を図るため、文部科学省委託「がん教育総合支援事業」を実施する。

学識経験者や医療関係者等を含めた「がん教育推進連絡協議会」を設置し、「がん教育に関する計画」の作成等に対し指導・助言を行うことで、学校におけるより効果的ながん教育の在り方について検討を行っていく。

2 事業内容

- (1) がん教育推進連絡協議会の開催
- (2) がん教育指導者研修会の開催
- (3) がん教育授業研究会の開催

3 実施内容

- (1) 連絡協議会について（年2回開催）

がん教育の推進を図るための「がん教育に関する計画」に対し指導・助言を行う。

ア 第1回協議会（がん教育の推進に向けた計画の検討）

日時 令和元年7月16日（火）午後2時30分～

会場 知事公館 小会議室

○令和元年度「がん教育総合支援事業」実施要項について

- ・がん教育推進連絡協議会について
- ・がん教育指導者研修会について
- ・がん教育授業研究会について

○がん教育における外部指導者の活用について

イ 第2回協議会（がん教育に関する計画の検証・成果報告）

日時 令和2年1月17日（金）

会場 危機管理防災センター 記者会見室

- 「がん教育指導者研修会」について
- 「がん教育授業研究会」について
- 効果の検証

※ がん教育推進連絡協議会に報告された実施結果を冊子にまとめ、県内の市町村教育委員会、県立学校等へ配布

- (2) がん教育指導者研修会について

学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動ができる児童生徒を育成し、がん教育を推進していく。

教職員・外部指導者を対象とした「がん教育指導者研修会」を開催し、効果的ながん教育の在り方について研修を行う。

ア 日 時 令和元年8月28日(水)午後1時～
イ 会 場 埼玉会館 大ホール
ウ 対 象 県内公立小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校の教
職員、市町村教育委員会指導主事、外部指導者

エ 内 容

(ア) 行政説明 県教育局県立学校部保健体育課
(イ) 実践発表 平成30年度モデル校
小学校実践校 久喜市立菖蒲小学校 小島 宏之 教諭
中学校実践校 鶴ヶ島市立南中学校 忍田 友子 教諭
高等学校実践校 県立飯能高等学校 高沢 聖子 養護教諭
梅田 直希 教諭
(ウ) 講 演 『今、学校で始まる「がん教育」』
講師 東京女子医科大学 教授 林 和彦 氏

(3) がん教育授業研究会について

小学校、中学校、高等学校のモデル校において「がん教育授業研究会」を開催し、効果的な指導方法の検討と授業モデルの普及と指導参考資料の作成を行う。

授業研究会 テーマ 「がんに関する指導の充実を図るための工夫について」

指導内容 ア がんとは、がんの要因
イ がんの種類とその経過
ウ 我が国のがんの状況
エ がんの予防
オ がんの早期発見・がん検診
カ がんの治療法
キ がん治療における緩和ケア
ク がん患者の生活の質
ケ がん患者への理解と共生

ア 小学校授業研究会

(ア) 日 時 令和元年10月30日(水)
(イ) 参加者 川越市内公立小・中学校教職員等
(ウ) 会 場 川越市立霞ヶ関小学校
(エ) 授業者 山中 雄一 教諭
嶋田恵美子 教諭
加藤 佳代 養護教諭
(オ) 題 材 特別活動「健康と命の大切さ」
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の育成

イ 中学校授業研究会

(ア) 日 時 令和元年10月16日(水)
(イ) 参加者 県内公立中学校教職員等
(ウ) 会 場 深谷市立川本中学校
(エ) 授業者 石山 絵理 教諭
朽原 若菜 養護教諭

- (オ) 単 元 保健体育（保健分野）
「(4) 健康な生活と疾病の予防」
イ 生活行動・生活習慣と健康
- (カ) 準備検討会 令和元年10月9日（水）（授業研究会中学校部）

ウ 高等学校授業研究会

- (ア) 日 時 令和元年11月6日（水）
- (イ) 参加者 県内公立高等学校・特別支援学校教職員
- (ウ) 会 場 県立志木高等学校
- (エ) 授業者 廣瀬 恵美 教諭
- (オ) 単 元 保健体育（科目保健）
（1）「現代社会と健康」
イ 健康の保持増進と疾病の予防
ア) 生活習慣病と日常の生活行動

(4) 効果的な指導方法の実践研究

- ・ 発達の段階に応じた効果的ながんに関する指導を行うための指導方法の実践研究
（「がん教育」における小・中・高の系統的な保健教育の実践研究を行う。）
- ・ 教科等横断的ながん教育の提案
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

4 他部局・他機関との連携

- (1) 保健医療部疾病対策課が実施している「出前講座」において連携を図る。
- (2) 埼玉県がん教育外部指導者研修会の開催
 - ア 日 時 令和2年2月12日（水）
 - イ 参加者 医療従事者、がん経験者 等
 - ウ 内 容 外部講師によるがん教育の実施にあたっての留意事項及び効果的な進め方等
- (3) 埼玉医科大学総合医療センター SMCがん教育セミナー 後援
 - ア 日 時 令和元年8月6日（火）午後1時～
 - イ 会 場 かわごえクリニック
 - ウ 内 容 講義（授業実践の紹介）、グループワーク

5 事業の成果

学校におけるがん教育の充実を図るためには、がんに関する正しい知識と正しい認識、命の大切さについて正しく理解させ、深めることが必要であることから、学識経験者や医療関係者等を含めた「がん教育推進連絡協議会」を設置し、「がん教育に関する計画」の作成等に対し指導・助言を行うことで、学校におけるより効果的ながん教育の在り方について理解を深め、県内への啓発を図ることができた。

(1) 「がん教育」指導者研修会

- ア がんに関する指導に携わる教職員のがんに対する正しい知識と意識の向上、及び学校におけるがんに関する指導の充実を図るための研修会を実施したことで、がん教育の必要性が理解され、実践例や指導教材等の普及啓発ができた。

- イ 行政説明の中で、学校におけるがんに関する内容の教育課程への位置付け例を挙げ、学校におけるがん教育の具体的な方向性を示すことができた。
- ウ 東京女子医科大学教授 林 和彦氏による講演『今、学校で始まる「がん教育」』により、学校における外部講師によるがん教育の考え方、進め方について理解を深めることができた。

(2) 授業研究会について

- ア 授業検討委員会では、発達段階に応じた適切な指導の在り方について検討を重ね、授業研究会で効果的な指導方法について提案できた。また、充実した研究協議を行うことができた。
- イ モデル校として新学習指導要領の全面実施に向けてがん教育を進めることができるよう、保健体育の保健分野、科目保健で授業案を検討することができた。その結果、各学校での実践の参考となる指導案及びワークシート等の指導資料を作成することができた。
- ウ 文部科学省作成の指導教材参考資料を活用した授業展開を検討し、普及・推進を図ることができた。
- エ 小学校のモデル校では、児童に「がんについて正しく理解することができる」「健康と命の大切さについて主体的に考えることができる」という2点について教科等横断的な視点から、体育科保健領域「病気の予防」と、特別活動を通して身に付けさせる授業計画で行った。さらに、事後指導では、がん専門医を外部講師として招き、自他の健康と命の大切さについて学ぶことができた。
- オ 中学校のモデル校では、令和3年度の新学習指導要領全面実施に向けて、中学2年生で、本単元を扱った。がんについて正しく理解することや、健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにするために、自分の考えを仲間の前で発表したり、他者の考えを聞いて共感する場面を設定したりすることによって、自分の考えや知識を深めることができた。事後指導として自校の学校総合支援員（がん経験者）からの話を聞くことで、がん患者への理解と共生について考えることができた。
- カ 高等学校のモデル校では、2時間扱いでがんに関する内容を扱った。1時間目はがんに関する基礎的・基本的な知識を一斉教授型の授業スタイルで習得させた。2時間目は、1時間目に学習した内容を踏まえ「がんは誰でもかかる可能性がある」ということをベースにそれぞれのライフステージに合わせた地域の保健所や保健センターの活動と資料を用いて、現在と未来の自分に向けたアドバイスと今後にとるべき行動を考えさせることができた。

(3) 外部機関・外部講師との連携について

- ア 医療機関との連携で、埼玉医科大学総合医療センター 教授 儀賀 理暁氏が実施する、「がん教育セミナー」では、医療関係者と教育関係者が共に研修を行ったことで、各々の取組内容を情報共有でき、効果的な指導法や連携の仕方を考える機会となった。
- イ 授業研究会の事後指導の中で、がん経験者、がん専門医等を外部講師として招き、授業を行ったことで、児童生徒の心に響く、効果的ながん教育を推進することができた。

6 課題

(1) 各学校の教育課程への位置付けの明確化

ア 平成29年3月に小・中学校の新学習指導要領が、平成30年3月に新高等学校学習指導要領が告示され、「がんについても取り扱うものとする」と明記された。同解説においても、がんに関する内容が明確に示されたことから、学習指導要領全面実施、年次進行実施に向けてがん教育をすべての学校で指導していくことを周知する。

イ がん教育の目標を達成するためには、保健体育の保健の学習では、がんに対する正しい知識を身に付けさせ、関連教科等を通じて、健康と命の大切さ、がん患者への正しい理解について実施していくことが必要である。体育・保健体育の保健の学習を中核に他の教育活動と連携した指導について、モデルとなるような取組を継続して提案していくことが課題である。

ウ 指導方法については、小・中・高の系統性を踏まえた指導計画の作成を研究していく。

(2) 外部講師の活用について

ア 保健医療部疾病対策課のがんに関する「出前講座」は、引き続き連携を取りながら協力していく。

イ 「保健」の授業で活用したい外部講師の選定・依頼・派遣については、県保健医療部疾病対策課と連携して、がん拠点病院・指定病院等の医師や、がん患者会、がん経験者等を学校に派遣できる体制づくりを進めている。昨年度同様、外部講師を対象とした研修会（別紙1参照）を開催するとともに、出前講座や授業研究会への見学研修を実施し、外部講師のリストを作成していく。

ウ 外部講師の育成のため、学校教職員対象の「がん教育指導者研修会」の参加も促していく。

(3) 研修会等の充実と普及・推進

ア 児童生徒にがんについての正しい知識を習得させるためにも、教職員ががん教育についての理解を深める必要がある。そのためにも指導者研修会を充実させ、養護教諭のみならず、保健体育科教諭等への研修会への積極的参加を呼びかけていく必要がある。参考となる指導案や指導教材などを情報提供し、どの学校でもがん教育を推進できる環境を整える必要がある。

イ がん教育の取組を、県内各地に偏りなく各学校で実践していくために、モデル校の選定を行い、がん教育指導者研修会や授業研究会の場を活用し、普及・推進していく。

7 令和2年度の事業について

(1) がん教育推進連絡協議会の実施（継続）

ア 日 時

(ア) 第1回 協議会 令和2年7月17日（金）※予定

(イ) 第2回 協議会 令和3年1月15日（金）※予定

イ 内 容

(ア) 本県のがん教育推進に向けた計画の検討

(イ) 本県のがん教育に関する計画の検証・成果報告

(2) がん教育指導者研修会の実施 (継続)

がんに関する指導を行う教職員の資質向上を図るため、研修会を実施していく。

ア 日 時

令和2年10月13日(火)

イ 内 容

(ア) 行政説明

(イ) 実践事例発表

(小学校) 川越市立霞ヶ関小学校

(中学校) 深谷市立川本中学校

(高等学校) 県立志木高等学校

(ウ) 講 演

埼玉医科大学総合医療センター 教授 儀賀 理暁 氏

演題 「未定」

(3) がん教育授業研究会の実施 (継続)

ア 指導内容について

(ア) がんについて正しく理解することができるようにする。

・保健体育(保健教育)の充実を図る。

・県の目標:学習指導要領完全実施までに保健体育の「保健」の授業で100%実施を目指す。

(イ) 健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする。

・特別活動・道徳・総合的な学習の時間等、学校教育全体を通じて指導を行う。

(ウ) 授業検討委員会を設置し、発達の段階を踏まえた指導すべき内容について、さらに検討を重ねるとともに、系統性を踏まえた指導計画を作成する。

イ モデル校について

モデル校(市町村教育委員会)の選定については、東西南北の地域のバランスを考慮し、これまで取組が行われていない地域を優先的に実施していく。

(4) 外部講師の確保について

ア 今年度実施予定の医療従事者・がん経験者等を対象とした「埼玉県がん教育外部指導者研修会」において、保健医療部疾病対策課と連携し学校におけるがん教育の推進について、研修を行うとともに、外部講師の協力依頼を行う。

イ 学校から、がん教育の外部講師の派遣依頼があった場合については、県保健医療部疾病対策課と連携して、がん拠点病院・指定病院等の医療従事者や、がん患者会、がん経験者等を学校に派遣できる体制づくりを整備し、外部講師のリストを作成していく。

ウ 学校医に対しても、学校医研修等で「学校におけるがん教育について」情報提供し、協力依頼をする。

(5) 関係機関との連携

県教育委員会と医療機関とが連携した研修会を次年度も計画していく。

ア 文部科学省委託事業「がん教育総合支援事業」を受託し、引き続きがん教育の推進を図っていく。

イ がん教育推進連絡協議会は今年度と同様年2回開催し、本県のがん教育推進のための計画、方向性、普及の仕方を検討し、各委員から指導・助言をいただくことで推進を図っていく。なお、委員の人選については各関係団体に依頼する。

Ⅱ 令和元年度埼玉県がん教育指導者研修会について

文部科学省委託事業「がん教育総合支援事業」

令和元年度埼玉県がん教育指導者研修会開催要項

1 趣 旨

日本人の死亡原因として最も多いがんについて、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であり課題であると指摘されている。

この課題解決のためには、学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるようにすることが必要である。

学校におけるがんに関する指導の充実を図るため、その必要性を十分理解し、学習指導の実践研究、普及啓発が行われるよう研修会を開催する。

2 開催日時 令和元年8月28日(水) 午後1時15分から午後4時30分
(受付：午後1時～)

3 会 場 埼玉会館 大ホール
〒330-8518 さいたま市浦和区高砂3-1-4
電話 048-829-2471

4 主 催 埼玉県教育委員会

5 参加対象者

- (1) 公立の小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校において、がん教育を行う教員(体育・保健体育担当教職員等)
- (2) 公立の小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校に勤務する管理職及び教職員
- (3) 市町村教育委員会の指導主事等
- (4) 学校医等及び外部指導者(医療従事者、がん経験者等)

6 日 程

13:00	13:15	13:20	13:35	14:35	14:45	16:15	16:25	16:30
受 付	開 会 行 事	行政説明 15分	実践事例発表 60分	休憩	講 演 90分	質 疑 応 答	閉 会 行 事	

7 内 容

(1) 行政説明

県教育局県立学校部保健体育課

馬場 久美子 指導主事

(2) 実践事例発表

- ・ 小学校指導事例 第6学年 特別活動(2)
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
「健康と命の大切さ」
久喜市立菖蒲小学校 教 諭 小島 宏之
- ・ 中学校指導事例 第3学年 保健体育(保健分野)
「健康な生活と疾病の予防」 イ 生活行動・生活習慣と健康
鶴ヶ島市立南中学校 教 諭 忍田 友子
養護教諭 高沢 聖子
- ・ 高等学校指導事例 第2学年 保健体育(科目保健)
「生涯を通じる健康」
イ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関
県立飯能高等学校 教 諭 梅田 直希

(3) 講 演

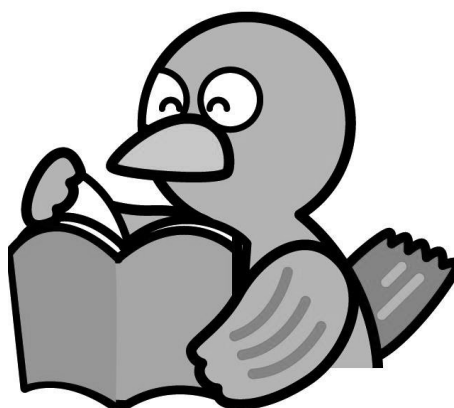
『今、学校で始まる「がん教育」』

講師 東京女子医科大学 教授 林 和彦 氏

<講演資料>

『今、学校で始まる「がん教育」』

講 師 東京女子医科大学 教授 林 和彦 氏



埼玉県教委の皆様へ

東京女子医科大学 林 和彦



なぜ医療者ががん教育？

ヘルスリテラシー (Health Literacy)

以下の3領域について、

ヘルスケア

病気や症状があるときの医療の利用場面など

疾病予防

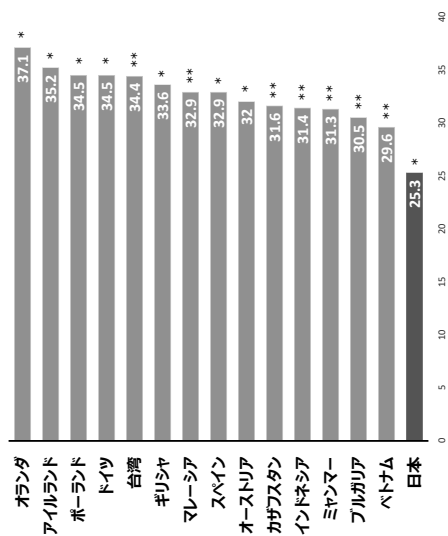
予防接種や検診受診、疾病予防行動など

ヘルスプロモーション

生活環境を評価したり健康のための活動に参加するなど

その健康情報を「入手」「理解」「評価」「活用」する能力

ヘルスリテラシー (HLS-EU-Q47による) の国別比較



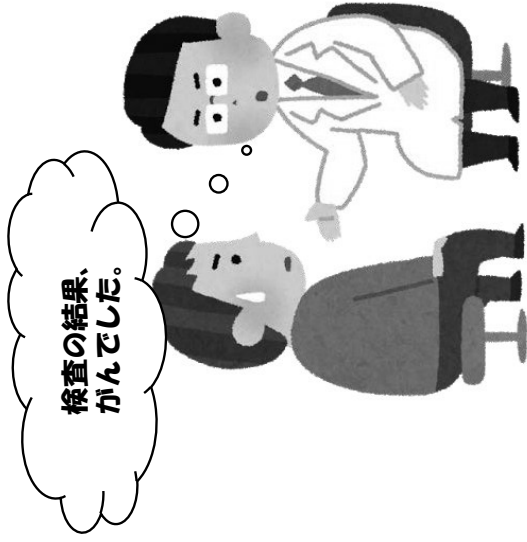
* Sorensen K, et al. Health literacy in Europe. Eur J Public Health.2015

** Duong TV, et al. Measuring health literacy in Asia. J Epidemiol.2017

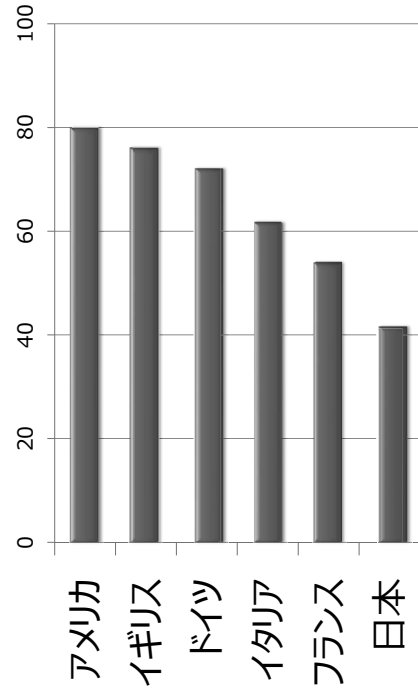
*** Nakayama K, et al. Comprehensive health literacy in Japan is lower than in Europe. BMC Public Health.2015

Sorensen K, et al. BMC Public Health. 12:80, 2012.

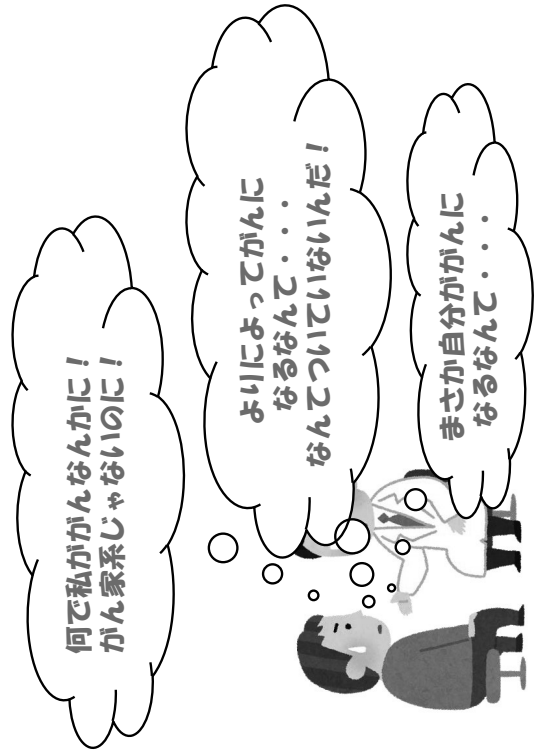
がん啓発活動



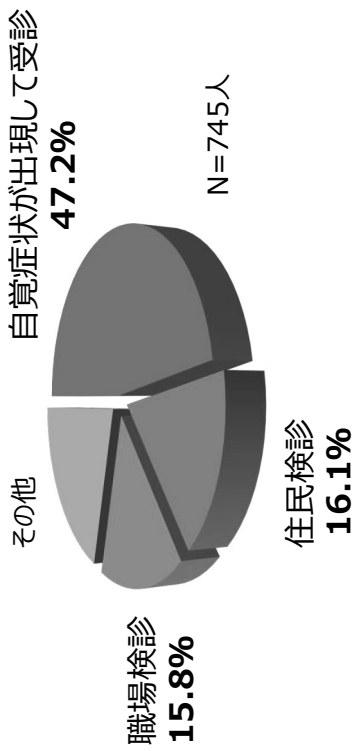
世界の乳がん検診受診率



がんの統計2017 - 国立がん研究センター がん情報サービスより

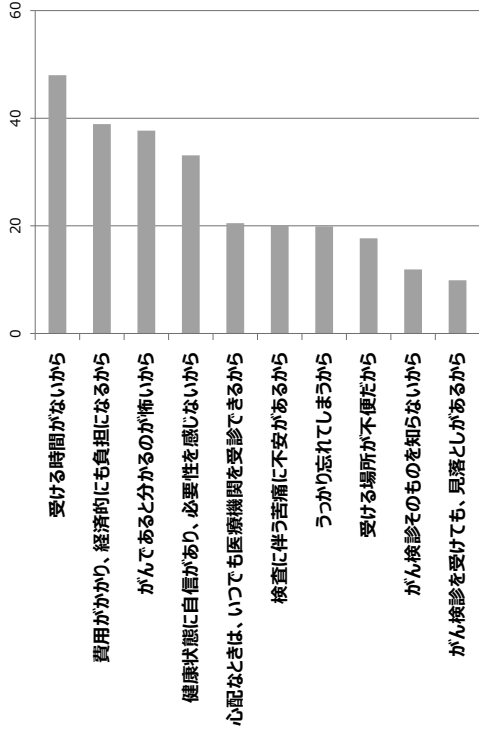


がんを発見したきっかけ



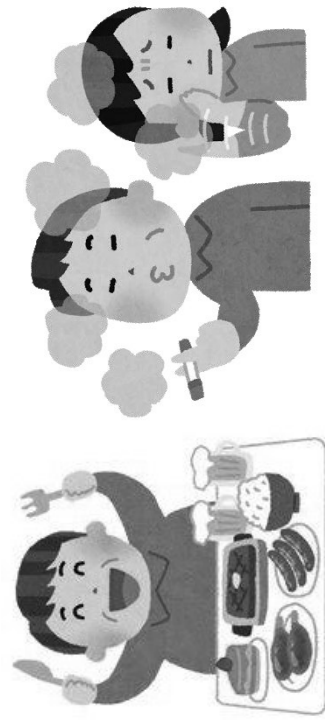
がんに関する意識調査 アフトラック 2010

がん検診を受けない理由



厚生労働省「がん対策に関する世論調査」2016.11

予防的行動をとらない(とれない?)国民性



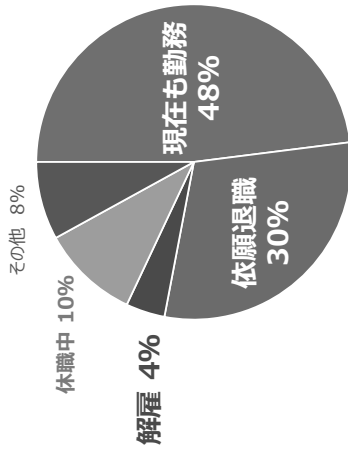
予防的行動をとらない(とれない?)国民性



がん患者が直面する就労問題

厚労省研究班（2013年）の資料より作成

勤務者の34%が依願退職、解雇



がん患者・経験者の就労問題

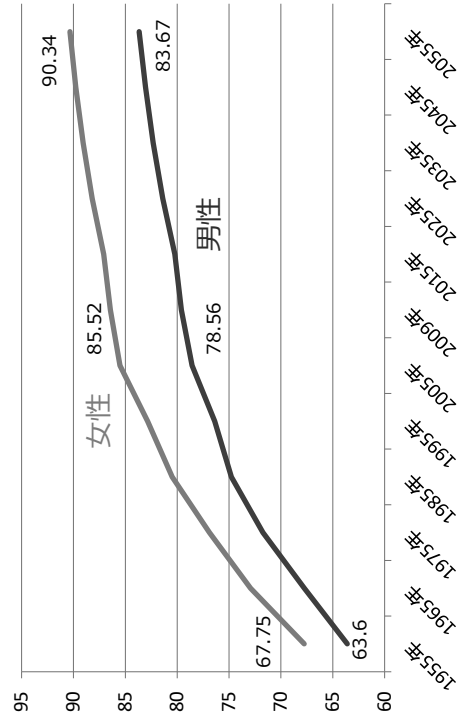
退職時期は

「診断確定時」：32%

「診断から最初の治療まで」：9%

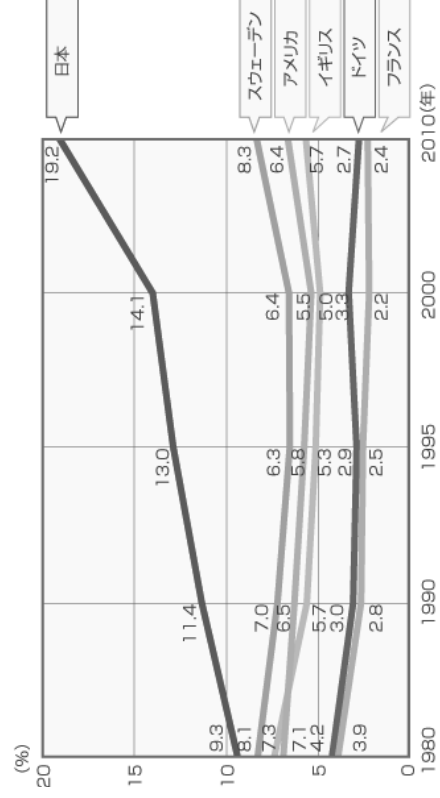
→ **4割以上が、治療前に退職！**

国民の平均寿命の推移と将来推計



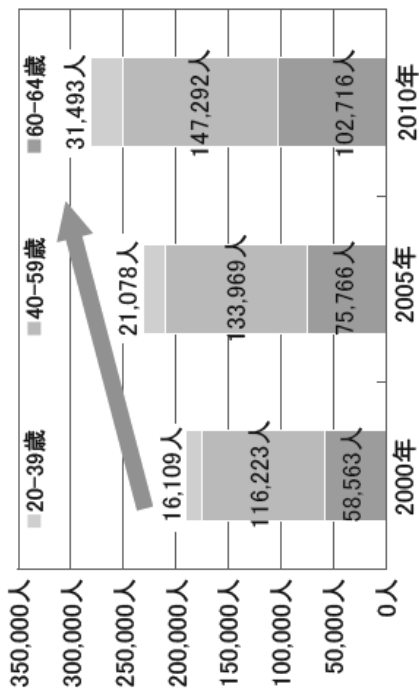
資料：2005年までは、厚生労働省「完全寿命表」、2006年は厚生労働省「簡易寿命表」
2015年以降は日本の将来推計人口（平成18年12月推計）の出生中位・死亡中位推定による推計結果より作成

就労人口に占める60歳以上の割合



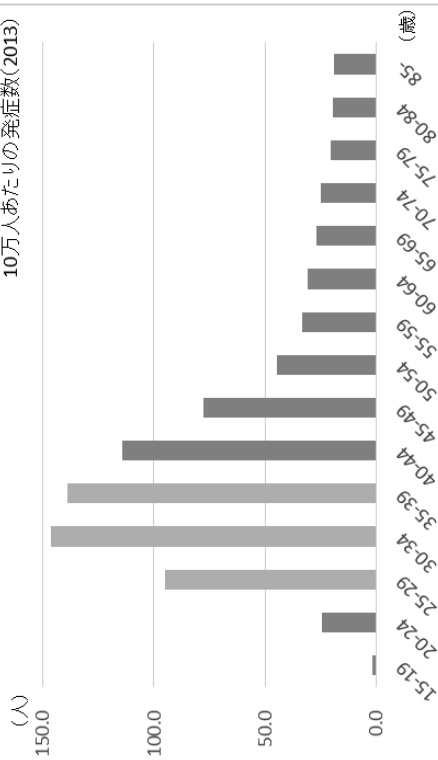
ILO: Economically active population Estimate and Projection, 1996
日本は労働省職業安定局推計（平成10年10月）

働く世代のがん患者が急増



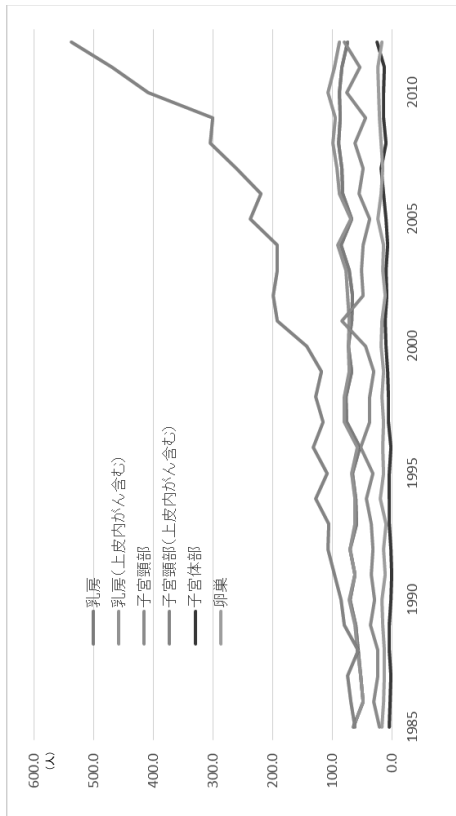
地域がん登録全国推計によるがん罹患データ(国立がん研究センター(国立がん情報センター)より)

【年齢別に見た子宮頸がんの発症率】 (上皮内がんを含む) 10万人あたりの発症数(2013)



資料: 国立がん研究センターがん情報サービス(がん登録・統計)

日本における20~39才の女性10万人あたりの各種がんの発症率推移



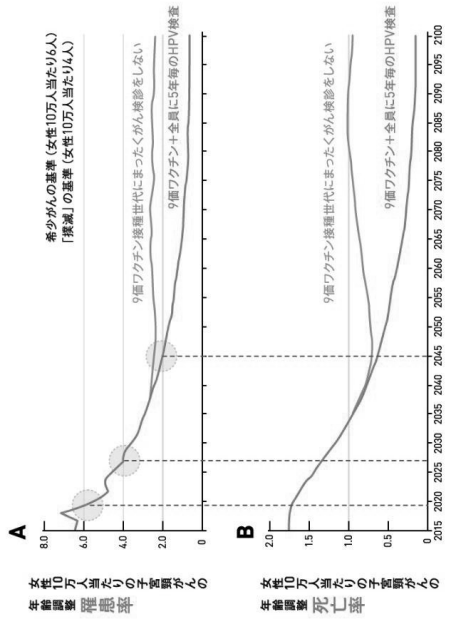
日本における20~39歳の女性10万人あたりの各種がんの罹患率推移 (1985年~2012年)
国立がん研究センターがん登録・統計

オーストラリアでは子宮頸がん罹患が2020年ごろには 希少がんの数と同等になりその後も撲滅に向かう



Hall MT et al. Lancet Public Health. 2018 Oct 1. doi: 10.1016/S2468-2667(18)01893-X

2017年からがん検診を2年毎の細胞診から5年毎のHPV検査に変更する新たながん検診プログラムを行い、2018年から9価HPVワクチンに変更した場合の9価ワクチン接種世代のがん検診による罹患率と死亡率の違いを比較した。



がんの予防

がんを防ぐ生活習慣（一次予防）

+

早期発見・早期治療（二次予防）

+

再発防止、社会復帰（三次予防）

学校教育は究極の啓発である！

第三期がん対策推進基本計画（抄）

（取り組むべき施策）

教員には、がんについての理解を促すため、外部講師には、学校でがん教育を実施する上での留意点や指導方法を周知するため、教員や**外部講師を対象とした研修会**等を実施する。

都道府県及び市町村において、教育委員会及び衛生主管部局が連携して会議体を設置し、**医師会**や患者団体等の関係団体とも協力しながら、また、**学校医やがん医療に携わる医師、がん患者・経験者等の外部講師**を活用しながら、がん教育が実施されるよう、国は必要な支援を行う。

II 地域がん診療連携拠点病院の指定要件について

4 情報の収集提供体制

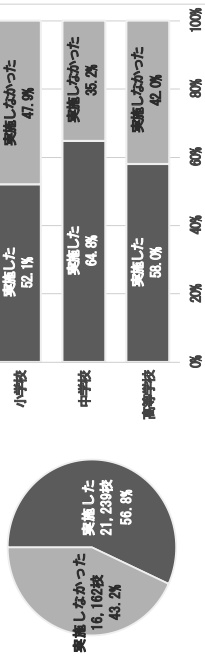
（3）情報提供・普及啓発

⑤ がん教育について

当該医療圏における学校や職域より依頼があった際には、**外部講師として医療従事者を派遣し**、がんに関する正しい知識の普及啓発に努めることが望ましい。なお、学校でのがん教育を実施するに当たっては、児童・生徒へ十分な配慮を行うこと。

実施状況

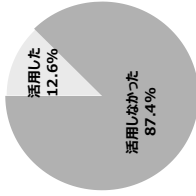
平成29年度にがん教育を実施しましたか
(回答総数37,401校)



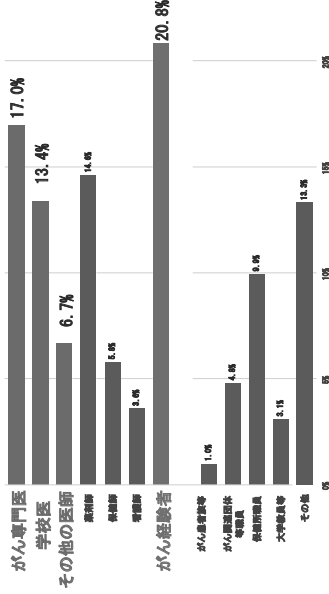
文部科学省
がん教育推進課
初等・中等教育局健康教育課・がん教育

外部講師 活用状況

外部講師を活用しましたか？



依頼した外部講師の職種（複数回答可）



文部科学省
がん教育推進課
初等・中等教育局健康教育課・がん教育

がん教育の目標

- ① がんについて正しく理解することができるようにする
- ② 健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする

→『知識』ではなく『意識』の教育

目次

1. がんとはどのような病気でしょうか？
2. 我が国におけるがんの現状
3. がんの経過と様々ながんの種類
4. がんの予防
5. がんの早期発見とがん検診
6. がんの治療法
7. がんの治療における緩和ケア
8. がん患者の「生活の質」
9. がん患者への理解と共生

学校におけるがん教育の在り方について
報告

平成27年2月
「がん教育」の在り方に関する検討会

第1学年 教科学習習指導案

道南 新設立派が小学校 ランダム

道南 森 啓行 (71) 単 元 第1学年

1. 学習のねらい

(1) がんという病名はどのような病気か、その特徴(種類)について知る。

(2) がんの発生原因はどのようなものか、その発生(原因)について知る。

(3) 学習内容の理解を深めるために、友達の考えと自分の考えを交流しようとしている。

2-① 学習の目標 (1/2)

知識	がんの発生原因が、放射線、化学物質、ウイルス、遺伝子異常、生活習慣、環境要因、免疫機能低下、ホルモンの影響、老化などであること。
理解	がんの発生原因が、放射線、化学物質、ウイルス、遺伝子異常、生活習慣、環境要因、免疫機能低下、ホルモンの影響、老化などであること。
技能	がんの発生原因が、放射線、化学物質、ウイルス、遺伝子異常、生活習慣、環境要因、免疫機能低下、ホルモンの影響、老化などであること。
態度	がんの発生原因が、放射線、化学物質、ウイルス、遺伝子異常、生活習慣、環境要因、免疫機能低下、ホルモンの影響、老化などであること。

2-② 学習の目標 (1/2)

知識	がんの発生原因が、放射線、化学物質、ウイルス、遺伝子異常、生活習慣、環境要因、免疫機能低下、ホルモンの影響、老化などであること。
理解	がんの発生原因が、放射線、化学物質、ウイルス、遺伝子異常、生活習慣、環境要因、免疫機能低下、ホルモンの影響、老化などであること。
技能	がんの発生原因が、放射線、化学物質、ウイルス、遺伝子異常、生活習慣、環境要因、免疫機能低下、ホルモンの影響、老化などであること。
態度	がんの発生原因が、放射線、化学物質、ウイルス、遺伝子異常、生活習慣、環境要因、免疫機能低下、ホルモンの影響、老化などであること。

2-③ 学習の目標 (1/2)

知識	がんの発生原因が、放射線、化学物質、ウイルス、遺伝子異常、生活習慣、環境要因、免疫機能低下、ホルモンの影響、老化などであること。
理解	がんの発生原因が、放射線、化学物質、ウイルス、遺伝子異常、生活習慣、環境要因、免疫機能低下、ホルモンの影響、老化などであること。
技能	がんの発生原因が、放射線、化学物質、ウイルス、遺伝子異常、生活習慣、環境要因、免疫機能低下、ホルモンの影響、老化などであること。
態度	がんの発生原因が、放射線、化学物質、ウイルス、遺伝子異常、生活習慣、環境要因、免疫機能低下、ホルモンの影響、老化などであること。

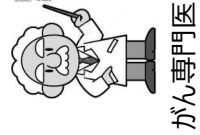
2-④ 学習の目標 (1/2)

知識	がんの発生原因が、放射線、化学物質、ウイルス、遺伝子異常、生活習慣、環境要因、免疫機能低下、ホルモンの影響、老化などであること。
理解	がんの発生原因が、放射線、化学物質、ウイルス、遺伝子異常、生活習慣、環境要因、免疫機能低下、ホルモンの影響、老化などであること。
技能	がんの発生原因が、放射線、化学物質、ウイルス、遺伝子異常、生活習慣、環境要因、免疫機能低下、ホルモンの影響、老化などであること。
態度	がんの発生原因が、放射線、化学物質、ウイルス、遺伝子異常、生活習慣、環境要因、免疫機能低下、ホルモンの影響、老化などであること。

がん教育推進協議会



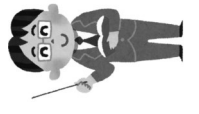
学校医



がん専門医



がん経験者



学校教員



学識経験者



区市町村教育委員会

東京都がん教育推進協議会

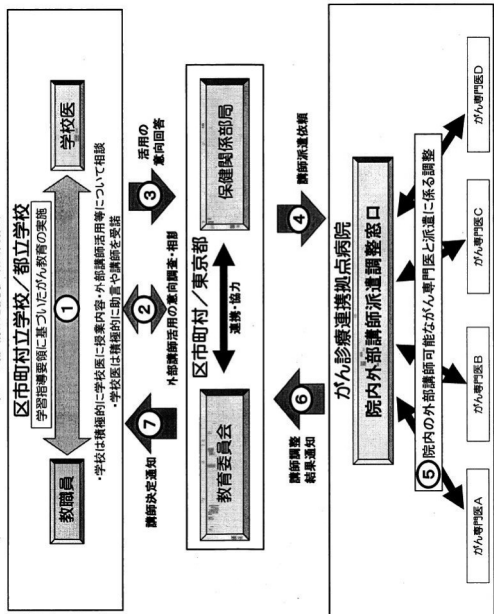
提言

- 1 学校におけるがん教育の充実
 - (1) がん教育の目標
 - (2) がん教育の授業の在り方
 - (3) 指導資料の充実
 - (4) 優れた実践事例の普及
 - (5) 教員研修の充実
- 2 外部講師の活用にあたっての基本的条件の整備
 - (1) 外部講師の適任者
 - (2) 活用体制構築にあたっての留意点
 - (3) 環境整備
- 3 がん教育推進のための委員体の設置
- 4 外部講師の派遣の仕組みづくり
 - (1) 仕組みの考え方
 - (2) 区市町村における外部講師派遣の仕組みの具体化
 - (3) 都立学校における外部講師派遣の仕組み
- 5 ロードマップ

平成 30 年 5 月

目次

がん教育における外部講師派遣に係る流れ(一例)



上記は、がん教育における外部講師派遣に係る流れの一例です。区市町村や学校の体制や状況によって、流れが多少異なることがあります。

外部講師のリスト化とプリーング

外部講師のリスト化とプリーング

都立校

【講師】

【所属】

【所属】

FAQ集の作成

平成30年11月6日

学校でがん教育における外部講師の依頼Q&A
(がん診療連携拠点病院)

Q1 がん教育で外部講師はどのようなことを想定しているのですか？
(がん診療連携拠点病院)

外部講師の依頼は、がん教育の推進を目的として、がん診療連携拠点病院と連携して実施することです。

Q2 外部講師はどのような役割を期待していますか？

A2 がん教育の推進を目的として、がん診療連携拠点病院と連携して実施することです。

Q3 がん教育で外部講師はどのようなことを想定しているのですか？
(がん診療連携拠点病院)

外部講師の依頼は、がん教育の推進を目的として、がん診療連携拠点病院と連携して実施することです。

Q4 学校におけるがん教育は、どのような役割を期待していますか？

A4 がん教育の推進を目的として、がん診療連携拠点病院と連携して実施することです。

Q5 学校におけるがん教育は、どのような役割を期待していますか？

A5 がん教育の推進を目的として、がん診療連携拠点病院と連携して実施することです。

Q6 がん教育を実施するにあたって、特に注意することはありますか？

A6 がん教育の実施にあたっては、がん診療連携拠点病院と連携して実施することです。

FAQ集の作成

いとうとあります。

Q3 がん教育は、どのような学校で実施されますか？

A3 学校現場で実施される。中学校、高等学校が多くありますが、小学校や特別支援学校(特)でも実施されます。

Q4 学校におけるがん教育は、どのような役割を期待していますか？

A4 がん教育の推進を目的として、がん診療連携拠点病院と連携して実施することです。

Q5 学校におけるがん教育は、どのような役割を期待していますか？

A5 がん教育の推進を目的として、がん診療連携拠点病院と連携して実施することです。

Q6 がん教育を実施するにあたって、特に注意することはありますか？

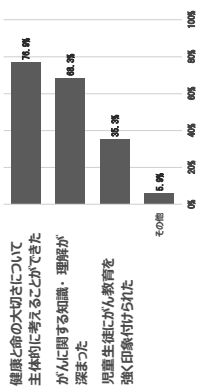
A6 がん教育の実施にあたっては、がん診療連携拠点病院と連携して実施することです。

FAQ集の作成

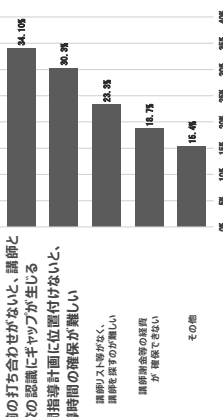
Q7	がん教育を行うに当たり、事前に学校との打ち合わせはありますか？
A7	がん教育を行う際には、必ず事前に学校との打ち合わせを行います。がん教育を行う方針や実施方法、実施の場、実施の日程、実施に関する事項等について事前の打ち合わせを行うことを想定しています。
Q8	がん教育の指導資料は、高校のものがありますか？
A8	A1で記載していますが、がん教育の指導資料は、文部科学省も数多く作成しており、自由にダウンロードができるパワーポイント資料や、すぐに使えるワークシート等ホームページに掲載しています。これらの資料を活用することもできます。また、東京都教育委員会でも、小学生用・中学生用・高校生のがん教育リーフレットと先生指導用印刷の許可を作成し、部内の公立学校に配布しました。
Q9	がん教育をした際に、謝状はありますか？
A9	A7でがん教育を行った際には、必ず事前に謝状を作成して学校に提出し、実施後に謝状も提出することになっています。謝状の内容は、実施内容や実施の場、実施日時、実施した学校等の関係者（関係団体）の名前、実施したがん教育の内容、実施したがん教育の担当者等の名前で記載することとなります。
Q10	本校への依頼をしてくる学校の所在はどの辺りでしょうか？
A10	本校は、東京府内に存在する二次教育機関の範囲で対応しています。県内においては、それ以外の地域から依頼があることもございますが、その際は依頼先と対応可能かどうかご確認ください。
Q11	がん専門職とはどのような職業を指しているのですか？
A11	A7でがん専門職の定義として説明していますが、国の「がん専門職法」に基づいて、がん専門職として認定されたがん専門職を指しています。がん専門職とは、国の「がん専門職法」に基づいて、がん専門職として認定されたがん専門職を指しています。がん専門職とは、国の「がん専門職法」に基づいて、がん専門職として認定されたがん専門職を指しています。がん専門職とは、国の「がん専門職法」に基づいて、がん専門職として認定されたがん専門職を指しています。

外部講師活用の効果と課題

外部講師を活用して、効果的だと思ったこと
(複数回答可)



外部講師を活用して、今後の課題であると思ったこと
(複数回答可)



【その他の回答】

- ・保護者や地域にも公開するなど広い啓発につながった。
- ・家族や周囲の人へ思いやる大切さを学ぶ機会となった。
- ・学校医(学校薬剤師)とのつながりが深まった。
- ・保母などでの専門学習実施が効果的であった。
- ・前向きな生き方を学ぶことができた。など

【その他の回答】

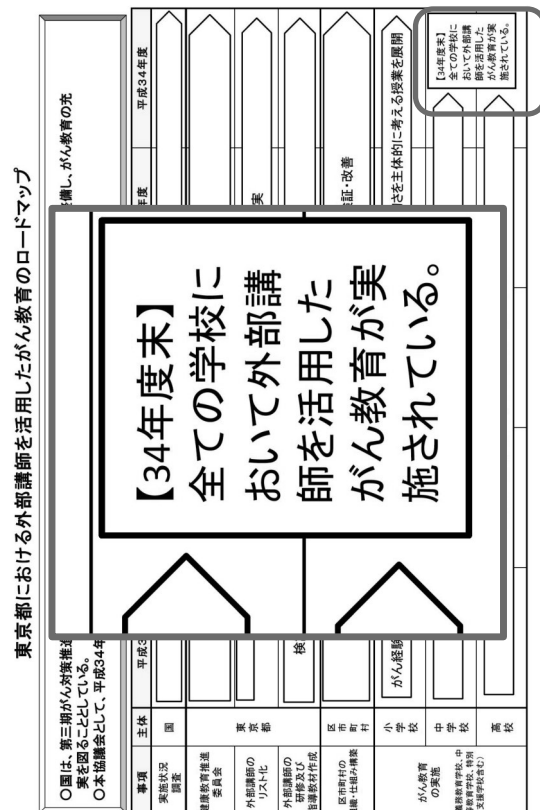
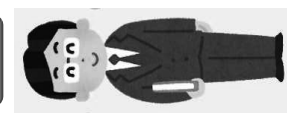
- ・講師との日程調整。
- ・指導内容、指導方法。
- ・身近にがん経験者がいる子供(職員)への配慮。
- ・事前学習の必要性。
- ・実物利用防止や喫煙防止など、他の内容とのバランス。など

外部講師と事前の共通理解

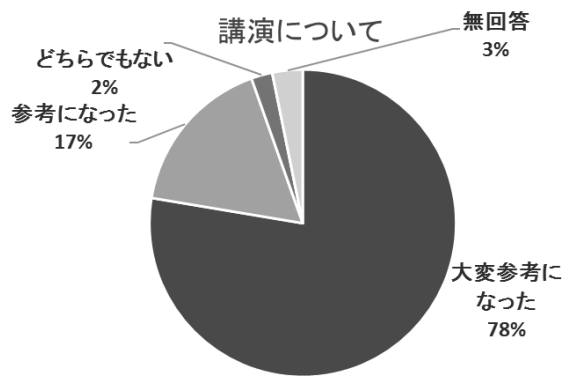
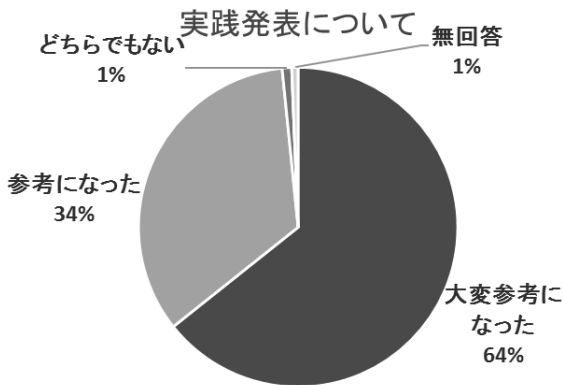
外部講師の思いや考え

- これまで、どれくらい学習しているのかしら？
- 事前にアンケートの協力をお願いします。
- 特に配慮が必要な生徒はいますか？
- がん教育全体の計画はどのようなようになっていますか？
- 中学2年生の保健の授業で課題学習を行う際、外部指導者として協力してください。
- 子供たちからの質問に対して、医師として科学的な知見から回答してください。
- 中学1年生の時、保健の授業で「がん」を取扱い、生命尊重について学習しました。
- 指導案をあとで送りますね。

学校のニーズ



令和元年度がん教育指導者研修会アンケート結果



<実践発表について>

「大変参考になった」「参考になった」

(理由)

- ・授業の内容や配慮事項などが具体的にわかった。
- ・授業の展開だけでなく、自分自身のがんへの理解が深まった。
- ・どの校種の実践も工夫されていて、子供たちの学びが深いものになっていると思う。
- ・正しい知識を児童生徒に身に付けさせたいと思った。
- ・実践例や文部科学省の教材はすぐに使えるものばかりで持ち帰って活用していきたいと思った。
- ・発達段階に合わせた実践や養護教諭とのTTまたは、外部講師の活用について参考になった。
- ・がんは他人事ではなく自分もかかるという前提の下で、がんとどのように向き合えばよいかと学べる実践だった。
- ・学校の考え方と外部講師の先生の考え方をすり合わせて工夫しながら出来たらよいと思った。
- ・小学校ではどの時間に誰がどこまで教えるのかを悩んでいたのが、参考になった。
- ・授業づくりにおいて、苦勞する点や教育課程の実施上の留意点も交えながらの発表だったので、自校の実践にすぐに生かせると思った。
- ・負担に感じず、子供たちの未来のためにやってみることが大事であると感じた。
- ・指導者研修の内容を担当や教科担当にも伝えていく必要があると思った。
- ・身近にがんにかかっている、またはがんで亡くしている場合の指導は難しいと感じた。
- ・教科等横断的にカリキュラムを組むことで、時数を確保し、より深い学習ができると感じた。
- ・小・中・高校での系統的な指導について理解することができた。
- ・実際にがんを体験された方から直接話を伺えることは貴重だと思う。
- ・県立図書館のウェブサイトもチェックして指導に生かしていきたい。
- ・外部講師ありきではなく、授業としてしっかり取り組んでいく大切さを感じた。
- ・実際に授業をしたあとの生徒の変容を聞くことができ、参考になった。
- ・すぐに活用できる資料やスライドがあると聞いて、がん教育に対するハードルが下がった。
- ・養護教諭の授業へのかかわり方が参考になった。
- ・自校が進めるがん教育について、より明確な方向へ進む一助となった。
- ・どの学校も掲示資料や授業の流れに工夫が見られ、引き付けられる内容であった。
- ・違う校種の授業実践を知ることができて勉強になった。
- ・これまで外部講師にお願いする形だったので、授業の進め方のイメージが持てた。
- ・国や県から出ている資料に良いものがあり、それらを活用するとある程度の内容が確保できることがわかった。

- ・授業を行うにあたっての経緯や、検討したことも聞くことができて良かった。
- ・それぞれの発達段階に沿った実践であった。勤務校でも自分自身のがんの経験を生かした実践を計画している。
- ・生徒本人または家族が患者当事者である例が数件あり、配慮は不可欠なので生徒の心理面での配慮と教育的効果などの課題をクリアしていきたい。
- ・学校教育の中で教員の皆様が大変な努力をされて授業をしているという熱意を感じた。

【医療関係者】

- ・患者家族であるかもしれない児童生徒へのケアの用意、配慮がなされていることを聞いて安心した。

【医療関係者】

- ・講義は一方向だが、授業は双方向であり、生徒の成長を身近に感じられるのではないかと思った。

【医療関係者】

- ・子供たちにどういう授業をしているのか、実際の報告を聞いてすごいなと思った。こういう授業が増えることで子供たちも病気について考えるきっかけになると思った。

【医療関係者】

- ・小・中・高で内容も吟味されており、興味深かった。体験者の声は必ずしも必要ではないと思うが、体験者だからこそ語れる何かもあると思った。

【がん経験者】

- ・小・中・高とそれぞれの学校の中での様子がよくわかり聞いてよかった。

【患者会】

- ・先生方が熱心に授業に向き合う姿勢がよく分かった。子供たちが興味をもつポイントなどもわかり、参考になった。

【医療関係者】

- ・かなり具体的にがん教育が行われている事実を知り、良いことと思った。検診の必要性までは理解させられると考えるが、もう一步進めて患者や学校のサポート体制やボランティア活動についても触れると社会活動との結びつきができると思う。「共生」ということばは変だと思う。

【患者会】

<講演について>

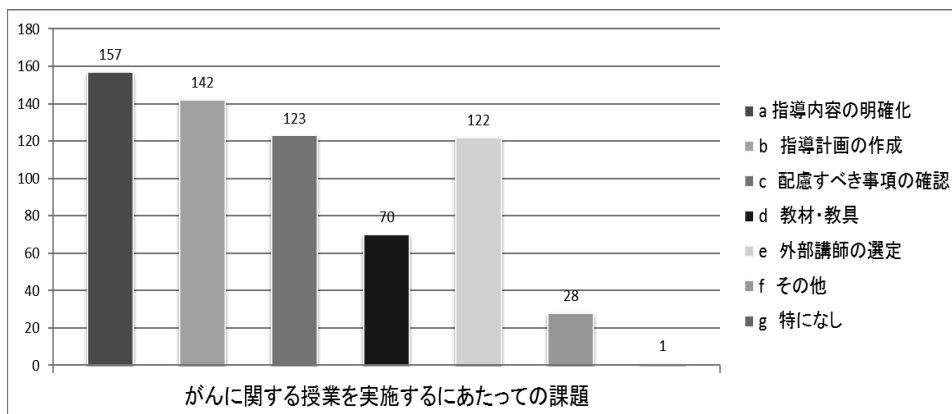
「大変参考になった」「参考になった」

(理由)

- ・知識ではなく意識の教育という言葉が印象に残った。
- ・ヘルスリテラシーを高めるためにも教員がやるべきことが見えてきた。
- ・がん教育の必要性、重要性を改めて感じた。
- ・日本人のがんに対する意識の低さに驚いた。
- ・厳しい口調でも、温かみのあるお話で、身の引き締まる思いだった。
- ・がん専門委の話聞くことができ、改めてがん教育の推進の必要性を感じた。
- ・自分の中のがんに対する考えが大きく変わった。
- ・学校教育は究極の啓発であるというように、一人一人が当事者意識をもって、意識を変えていきたいと思う。
- ・教師側の正しい知識が必要だと思った。
- ・臨床の立場と学校現場での実践の双方からのお話を聞くことができて良かった。
- ・がん教育以外にも教員としてのプロ意識を燃え上がらせてくださるような講演だった。
- ・がん患者が抱える就労問題について改めて考えさせられ日本が抱える深刻な問題に気づかされた。
- ・文部科学省ががん教育を推進する理由がわかった。
- ・がんへの恐怖を抱くだけでなく、治療や予防へ目が向けられるような授業を行っていききたいと思った。
- ・子供たちの感想が素敵だった。

- ・先生の熱意が伝わってくる講演で勇気もらった。
- ・教員として、大人として健康教育を進める立場の人間として、様々なことを考えさせられた。
- ・子宮頸がんのワクチン接種の話も大変参考になった。
- ・私たちが教育に向き合う姿勢が、未来の子供たちの姿につながることを再確認できた。
- ・健康な子供たちにとってがんの深刻さと予防意識を自分事としてとらえるのは難しいが、林先生がおっしゃるように伝え方をよく考えて心に響く指導をしたい。
- ・家族で予防に努める環境づくりが必要だと思った。
- ・今日までがん教育の意義や目的が不明確だったが、今回の講演で理解することができた。
- ・教員も自分の体を大切にできるよう、今日の話を見習って伝えたい。
- ・「この世に知らなくてよいことなんてない」という言葉に考えさせられた。
- ・教員は影響力のある仕事なので、子供たちにごんについてしっかりと伝えていきたいと思った。
- ・厳しい言葉の中にも優しさが伝わってくるお話だった。
- ・ご自身の経験からの「がん教育」の必要性は説得力があった。私自身の経験からも共感することが多く、子供たちにも伝えていきたいと思う。
- ・がんに対する考え方が180度変わった。特にがん検診を受けない理由と日本はヘルスリテラシーが低い点については授業で触れていきたい。
- ・ご自身の経験から全身全霊で普及啓発されてきたことに感銘受けました。
- ・知的障害のある子供たちへ何をどう伝えるか、アドバイスが欲しい。
- ・薬局で抗がん剤をお渡しする患者さんの背景も考えそれを思い出し涙なくしては聞くことができなかった。 【薬剤師】
- ・臨床で、がん患者さんが自分の幼い子供にごんを伝えるか伝えないかで悩んでいる場面に出会うが、伝えるかどうかではなく、子供たちが何を感じているのか、何をしてあげたいと思っているのか、それを支えていくことが大切だと感じた。 【医療関係者】
- ・がん患者のスピリチュアルペインを理解し、ケアできる子供の力を知り、心強く思った。 【医療関係者】
- ・個人が「がん」という病気についてより身近に感じなければいけない現状の中で、医療者こそ正しい知識を身に付け、患者さんや家族へ働きかけることが必要であると感じた。 【医療関係者】
- ・予防的行動をとらない（とれない）国民性とのこと、だからこそ子供のころからの教育、医療と教育による地域や社会への貢献が極めて大切だと思った。 【がん経験者】
- ・講演内容がストレートでつらいこともあったが、勉強していきたいと思った。

くこれから、学校においてがんに関する授業を実施するにあたり、課題と思われることは、どのようなことですか？



その他の記述

- ・時数の確保（11）
- ・教員の知識や意識（6）
- ・教員のがん教育に対する理解・連携（3）
- ・保護者の理解、教育課程への位置づけ（各2）
- ・教員の研修、教科書の内容、外部との連携、全て（各1）

Ⅲ 令和元年度埼玉県がん教育授業研究会

1 川越市立霞ヶ関小学校

文部科学省委託事業「がん教育総合支援事業」

令和元年度埼玉県「がん教育」授業研究会(小学校)実施要項

1 趣 旨

日本人の死亡原因として最も多いがんについて、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であり課題であると指摘されている。

この課題解決のためには、児童生徒が学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるように指導することが必要である。

そこで、学校におけるがんに関する指導の充実を図るため、発達の段階に応じた適切な指導が実施されるよう、授業研究会を開催し、研究協議を行う。

2 主 催 埼玉県教育委員会

3 期 日 令和元年10月30日(水)

4 会 場 川越市立霞ヶ関小学校
〒350-1175 川越市笠幡177

5 参加対象者 川越市立小・中学校教職員

6 日 程

- | | | |
|----------|---------------|---------|
| (1) 受付 | 13時00分～ | (体育館) |
| (2) 全体会 | 13時20分～13時40分 | (体育館) |
| (3) 公開授業 | 13時50分～14時35分 | (体育館) |
| (4) 研究協議 | 15時00分～16時30分 | (体育館) |

7 公開授業

学年	授業者	題 材
6年	山中 雄一 教諭 嶋田恵美子 教諭 加藤 佳代 養護教諭	特別活動 「健康と命の大切さ」 ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の育成

8 指導者及び役員

埼玉県教育局県立学校部保健体育課	課 長	伊藤 治也
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	主席指導主事	駒崎 弘匡
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	指 導 主 事	馬場久美子
埼玉県教育局西部教育事務所	指 導 主 事	栗原 智靖
川越市教育委員会教育指導課	主 幹	亀森 智子

埼玉県がん教育授業検討委員会委員

埼玉大学教育学部	准 教 授	七木田文彦
埼玉医科大学総合医療センター	教 授	儀賀 理暁
深谷市立深谷西小学校	教 諭	栗田 顕
春日部市立豊春小学校	養 護 教 諭	野上 弘恵

第6学年3組 学級活動（保健指導）指導案

令和元年10月30日（水）第5校時
 場 所 体育館
 児童数 35名
 指導者 T1：山中雄一
 T2：加藤佳代
 T3：嶋田恵美子

1 題材名 「健康と命の大切さ」 ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の育成

2 児童の実態と題材設定の理由

(1) 児童の実態

児童はこれまでに、体育の保健領域の学習「病気の予防」において、病原菌や体の抵抗力、生活行動、環境などが関わり合って病気が起こることを学習してきた。また、病気によって、それぞれ予防の仕方が異なってくるということについても学習している。しかし、「がん」については、生活習慣病の一つであるということについては学習しているものの、詳しい内容については触れていないのが現状である。

下記に示す、事前アンケートの結果からは、「がん」という病気に対して「怖い」や「治りにくい」など負のイメージを持っている児童が多いことがわかる。一方で、健康への意識は高く、そのためにも、「がん」の学習は必要であると考えている児童が多いことも伺える。

本学級の児童は、男女間の仲も良く、協力的に活動を進めることができる。そこで、グループ活動を多く取り入れ、子供たち同士で話し合いながら学びを深められるような授業展開となるようにしたい。

①がんと聞いてどんなことをイメージしますか。

- ・怖い、痛い、辛そう、治りにくい病気。
- ・体の色々な所に転移して、最悪死んでしまう危険な病気。
- ・手術をしても治るか分からなく、死んでしまうかもしれない。

②がんについての以下の質問について、当てはまるものに○をつけましょう。

	質 問	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば 思わない	そう思わない
a	がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。	73%	25%	2%	0%
b	がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ。	72%	26%	1%	1%

③がんについての以下の質問について、当てはまるものに○をつけましょう。

	質 問	正しい	誤り
a	がんは誰もがかかる可能性のある病気だ。	89%	11%
b	がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある。	99%	1%
c	がんは日本人の死因の第2位である。	58%	42%
d	たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある。	93%	7%
e	早期発見すれば、がんは治りやすい。	84%	16%
f	体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い。	6%	94%
g	がんの治療法には手術治療しかない。	30%	70%
h	がんの痛みは我慢するしかない。	18%	82%

④がんについての以下の質問について、当てはまるものに○をつけましょう。

	質 問	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば 思わない	そう思わない
a	自分のがんにならないと思う。	12%	32%	22%	34%
b	将来、たばこは吸わないでいようと思う。	85%	4%	6%	5%
c	日頃から、バランスの良い食事や適度な運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。	64%	35%	1%	0%
d	がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。	63%	31%	4%	2%
e	がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。	22%	25%	30%	23%
f	がんになっても生活の質を高めることができる。	13%	34%	37%	16%
g	がんになっている人も、過ごしやすい世の中にしたい。	69%	25%	6%	0%
h	がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。	27%	47%	22%	4%
i	家族や身近な人が健康であってほしいと思う。	93%	7%	0%	0%
j	長生きするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。	77%	21%	2%	0%

(2) 題材設定の理由

1981年より日本人の死因の第1位はがんであり、生涯でがん罹患する確率は、男性63%、女性47%に達している。今日においては、日本人の2人に1人はがんにかかり、3人に1人はがんで亡くなるといわれている。このことは、がんは国民における健康及び生命にとって重要な課題であり、健康に関する国民の基礎的教養として身に付けておくべきものとなりつつある。

わが国では、がん対策基本法のもと、がん対策推進基本計画が策定された。その中で「子どもに対しては、健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理し、がんに対する正しい知識とがん患者に対する認識をもつように教育することを目指す」といった目標が示されている。また、「健康については子どもの頃から学習することが重要であり、学校でも健康の保持増進と疾病の予防といった観点から、がんの予防も含めた健康教育に取り組んでいる。しかし、がんそのものやがん患者に対する理解を深める教育は不十分である」と指摘されている現状もある。

このようなことから、学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、がんを正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるようになると考えた。そして、他の様々な病気の予防や望ましい生活習慣の確立を含めた健康教育の充実を図る上でも意義のある内容であると捉え、本題材を設定した。

(3) 本題材の指導

本題材では、児童に「がんについて正しく理解することができる」「健康と命の大切さについて主体的に考えることができる」という2点について教科等横断的な視点から、体育科保健領域と特別活動を通して、身に付けさせていきたいと考える。がんに対する科学的根拠に基づいた理解については、中学校・高等学校で専門的に扱うのが望ましいと考え、小学校段階では、がんに対する基礎的な知識(原因、予防、早期発見、検診等)の理解に絞って学習し、健康と命の大切さについて主体的に考える児童の育成を目指す。また、家族にがん患者がいる児童や身近な人をがんで亡くしている児童がいることから、養護教諭や学年の先生方と連携し、児童への配慮を慎重に行っていく。

事後の指導では、意思決定したことの実践と振り返りを行う。児童が目標実現に向けて取り組む姿を認め、励まし、成果をあげることができるよう指導する。

3 評価規準

(保健領域)

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
<p>①病気の予防について、教科書や資料などを見たり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習活動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>②病気の予防について、課題の解決に向けての話合いや発表などの学習活動に進んで取り組もうとしている。</p>	<p>①病気の予防について、教科書や調べたことを基に、課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。</p> <p>②病気の予防について、学習したことを自分の生活と比べたり、関係を見付けたりするなどしてそれらを説明している。</p>	<p>①病気の起こり方について理解したことを言ったり、書いたりしている。</p> <p>②病原体が基になって起こる病気の予防について理解したことを言ったり、書いたりしている。</p> <p>③生活行動が関わって起こる病気の予防について理解したことを言ったり、書いたりしている。</p> <p>④喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について理解したことを言ったり、書いたりしている。</p> <p>⑤地域の様々な保健活動の取り組みについて理解したことを言ったり、書いたりしている。</p>

(学級活動)

よりよい生活や人間関係を 築くための知識・技能	集団の一員としての話合い活動や 実践活動を通した思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
<p>自己の生活上の課題の改善に向けて自主的に取り組むことの意義を理解するとともに、そのために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。</p>	<p>自身の健康のためにできること、身近な人ががんになった時に自分にできることを話し合い、自らの解決方法を意思決定し、実践している。</p>	<p>自己の生活をよりよくするために、他者と協働して自己の生活上の課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、他者を尊重してよりよい人間関係を形成しようとしたりしている。</p>

4 事前の指導

日付	主な活動	・指導上の留意点	☆評価の観点
9 / 6	○アンケート調査	・結果を分析・集計し一人一人の実態・学級の傾向を把握する	
9 / 24 ～ 10 / 18	○体育科 (保健領域) 1 / 8～4 / 8時間 ・正しい生活習慣を身に付けることの大切さ、喫煙、飲酒による健康への害について学習する。	・がんが死亡原因の1位であることを押さえる。 ・生活習慣に気をつけることで予防できるがんもあることを押さえる。	☆がんの予防には、生活習慣が関係していることが分かる。

5 単元の指導と評価の計画 (全10時間 保健8時間+学級活動2時間)
(保健領域)

欄	学習のねらい・活動	関	思	知	評価方法
1 病気の起り方	<p>[病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境などが関わり合っ て起こることを理解することができる。]</p> <p>①かぜをひいた時、体にどんなことが起こるか経験を振り返る。 ②どんな時にかぜをひくのか、自分や家族がかぜをひいた時のこ とを思い出して、発表する。 ③児童から出てきた意見や、教科書の絵をもとに、かぜは色々な 原因が重なって起こることを整理する。 ④かぜ以外の病気の原因を、教科書を参考にして調べる。 ⑤どんな時に病気が起こるかを話し合う。 ⑥調べたり、話し合ったりしたことをもとにして、病気の起り方 方についてまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病気の原因は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境 の4つに分けて考えることができること ・ 病気が起こる原因には、4つの原因が関わり合っ て起こること </div>	①			発表 ① ワークシート
2 感染症の予防	<p>[感染症の予防には、病原体が体の中に入るのを防ぐことや、病 原体に対する抵抗力を高めることが必要なことを理解できる ようにする。]</p> <p>①感染症の名称が書かれた一覧表を見ながら、聞いたことのある 感染症をチェックする。 ②インフルエンザなどの感染経路について調べる。 ③ノロウイルス感染症などの感染経路について調べる。 ④病原体にはたくさんの種類があり、感染の仕方や、感染症の症 状はさまざまであることを知らせる。 ⑤感染症の予防について、普段気をつけていることや、知ってい ることを発表する。 ⑥教科書を参考に感染症の予防の仕方を分類していく。 ⑦参考事例の状況を読み取り、それぞれに対応について理由を考 える。 ⑧感染症の予防についてまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病原体のもとになって起こる病気の感染経路を理解し、 その予防には「病原体をなくす」「病原体のうつる道 筋を断ち切る」「体の抵抗力を高める」などがあるこ と </div>		①		発表 ワークシート ② 発表 ワークシート
3 生活習慣病の	<p>[生活習慣病を予防するためには、食事、休養、睡眠などについ て、健康によい生活習慣を身に付けることが必要であることを 理解できるようにする。]</p> <p>①生活習慣病について、知っていることを発表する。 ②「日本人の死因の内訳」のグラフから、死因の上位を生活習慣 病が占めていることを読み取る。 ③偏った食生活や、運動不足が体にどんな変化を及ぼすかについ て調べる。</p>				

予防 ①	④生活習慣病を予防する観点から、生活習慣病になりやすい生活をしている友達に、どんな言葉がけをするか考える。 ⑤健康によい生活習慣について、食事、運動、休養・睡眠のそれぞれの観点でまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 指導すべき内容 <ul style="list-style-type: none"> ・日本人の死因の1位が「がん」であることや生活習慣がもとになって「がん」にかかることがあること。 ・生活習慣病を予防するためには、食事、運動、休養・睡眠に気を配り、健康な生活習慣を身に付ける必要があること。 </div>		②	③	ワークシート ワークシート
4 生 活 習 慣 病 の 予 防 ②	[むし歯や歯周病を予防するためには、口の中を清潔にしておくことなど望ましい生活習慣を身に付けることが必要なことを理解できるようにする。] ①むし歯になった時の経験について発表する。 ②二人の子どもの1日の生活を比較し気づいたことを発表する。 ③「むし歯の起こり方」と「歯がとけやすい状態」の二つの要素を関連付けて考える。 ④歯周病の進み方を調べる。 ⑤歯周病の症状を調べる。 ⑥参考事例に示された状況を読み取り、正しくない理由を説明する。 ⑦むし歯や歯周病を予防するためにはどうしたらよいか生活習慣の観点でまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 指導すべき内容 <ul style="list-style-type: none"> ・むし歯や歯周病を予防するには、口腔の衛生を保つなどの口の中を清潔にしておくことが必要であること。 </div>		②	③	観察 発表 発表 ワークシート

(学級活動)

欄	学習のねらい・活動	知	思	態	
① 本 時	[健康のためにできることを考え、自分が取り組むことの目標を決めることができる。] ①がんにかかる人の割合のグラフやアンケートの結果からがんに対するイメージを確認する。 ②がんについて自分の課題を調べる。 ③調べた結果やまとめたことをグループで伝え合う。 ④健康のためにできることをグループで話し合う。 ⑤グループで話し合ったことを発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 指導すべき内容 <ul style="list-style-type: none"> ・がんを予防・早期発見するために自分にできることを考えることができること。 ・自分自身の健康のためにできることを考え、将来にわたって取り組むことが考えることができること。 </div>	○	○		発表 発表 ワークシート

② 事後	<p>[身近な人ががんになった時、自分にできることを考え、人の思いや命の大切さについて考えることができる。]</p> <p>①がんについて前時の学習を振り返る。 ②身近な人ががんになった時の気持ちを考える。 ③身近な人ががんになった時に自分にできることを考えグループの中で伝え合う。 ④ゲストティーチャーの話を聞く。 ⑤ゲストティーチャーの話を聞いて自分の考えをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な人ががんになった時に自分にできることを主体的に考えようとしていること。 ・身近な人ががんになった時に自分にできることを考え、判断すること。 </div>		○		<p>発表</p> <p>○ ワークシート</p>
---------	--	--	---	--	---------------------------

(保健領域)

欄	学習のねらい・活動	関	思	知	評価方法
5 喫煙の害と健康	<p>[喫煙が健康に及ぼす害について理解できるようにする。]</p> <p>①喫煙に関連する看板やマークについて知っていることや気づいたことを発表する。 ②禁煙や分煙が行われている理由を考え、話し合う。 ③たばこの煙には健康にとって有害な物質が多く含まれていること、受動喫煙によってたばこを吸わない人も健康に害を受けていることを理解する。 ④「すぐに体に現れる影響」(急性影響)について調べる。 ⑤「喫煙と開始年齢と病気による死亡との関係」について、調べる。 ⑥早い時期からたばこを吸い始めた時の影響について調べる。 ⑦喫煙の害についてまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たばこを長い期間吸い続けると、肺がんや心臓病などの病気にかかりやすくなること。 ・喫煙の害や受動喫煙によるまわりの人への悪影響を理解し、長い期間や早い時期からの喫煙は健康への害が大きくなるということ。 </div>		②		<p>発表</p> <p>④ ワークシート</p>
6 飲酒の害と健康	<p>[飲酒が健康に及ぼす害について理解できるようにする]</p> <p>①お酒について知っていることや思ったことを発表する。 ②飲酒運転が禁止されている理由について調べる。 ③お酒を飲むとどんな影響が出るかを調べる。 ④お酒を飲むと、アルコールによって脳が麻痺し注意力や判断力が鈍ること、飲酒によって呼吸や心臓が苦しくなるなどの影響が現れることなど、飲酒の急性影響について理解する。 ⑤飲酒の慢性影響について調べる。 ⑥飲酒の害についてまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長い期間、過度に飲酒を続けると脳、肝臓(肝臓がん)、心臓、胃(胃がん)、腸などの病気の原因になる場合があること。 </div>		①		<p>ワークシート</p> <p>④ 発表 ワークシート</p>

<p>7 薬物乱用の害と健康</p>	<p>[薬物乱用は、1回の乱用でも死に至ることがあり、乱用を続けるとやめられなくなり、心身の健康に深刻な影響を及ぼすことを理解できるようにする。]</p> <p>①薬物乱用について知っていることや思ったことを発表する。 ②薬物乱用について説明する。 ③「シンナーの害」の図をもとに、体への害について調べる。 ④薬物が別名で呼ばれていることに気づかせ、注意を促す。 ⑤一度乱用すると止められなくなるということについて調べる。 ⑥薬物乱用は乱用者個人の問題ではなく社会的な問題であり、法律で厳しく禁止されていることを理解する。 ⑦薬物乱用について理解したことをもとに、「薬物に手を出さない」という「自分の決意」を書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンナーなどの薬物の乱用は心や体の健康に大きな害を及ぼすこと。 </div>			<p>④ ②</p>	<p>ワークシート ワークシート</p>
<p>8 地域の保健活動</p>	<p>[地域では人々の病気や予防するために、さまざまな保健活動が行われていることを理解できるようにする。]</p> <p>①自分の家族が健康のために気をつけていることを発表する。 ②学校で行われている健康を守る活動について発表する ③これまでの保健の学習を振り返りながら、身近な活動を振り返らせる。 ④市区町村の広報紙やホームページをもとに、健康に関する情報を調べる。 ⑤教科書を参考に、保健所や保健センターなどでは、健康を守るためにどんな活動が行われているか調べる。 ⑥調べたことをもとに、地域で行われている保健活動についてまとめる。 ⑦自分や家の人の健康を守るために、地域の保健活動をどのように活動できるか、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ではさまざまな保健活動が行われており、人々の健康はそれらの保健活動に支えられていること。 ・生涯を通して健康を保持増進するために、地域で行われている保健活動や情報に関心をもつこと。 </div>	<p>①</p>		<p>⑤</p>	<p>観察 ワークシート 発表 ワークシート</p>


6 本時の学習と指導 (1 / 2時)

(1) ねらい

健康な生活を続けるために必要な知識や行動の仕方等について考え、自分が取り組むことの目標を決めることができるようにする。

(2) 展 開

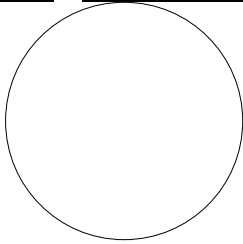
時間	学習内容・活動	・指導上の留意点 ☆評 価	資料等
(つかむ) 5分	1 がんにかかる人の割合のグラフやアンケートの結果からがんに対するイメージを確認する。 ・がんになる人の割合 ・がんに対する児童の意識 ・がんのイメージ	・がんについて興味・関心を高めるような問いかけをする。(T1) ・授業中に児童が体調不良を訴えた場合に備え養護教諭に待機してもらう。(T1)	アンケート結果
	2 本時のねらいを知る。 がんを正しく理解し、自分ができることを考えよう。	・怖い、痛い、辛そう、治りにくい病気。 ・体の色々な所に転移して、最悪死んでしまう危険な病気。 ・手術をしても治るか分からなく、死んでしまうかもしれない。 ・がんを正しく理解する大切さを伝え児童の学習への意欲を高める。(T1)	
(さぐる・見つける) 30分	3 がんについて自分の課題を調べる。 ①どうしてがんになるの？(原因) ・体の中にまれに別の細胞ができてしまう。(がん細胞) ・がん細胞がたくさん増えて正しく働かなくなってしまう。 ②がんにならないためにどうすればいいの？(予防) ・原因はいろいろあり分かっていないものもある。 ・健康によい生活習慣をおくることが大切である。	・「がんの原因」「がんの予防」「がんの早期発見」ごとのグループに分かれる。(ミニ授業) T3: 「がんの原因」 T1: 「がんの予防」 T2: 「がんの早期発見」 ・活動の取りかかりがスムーズになるように流れを確認しておく。(T1～T3) ①課題の確認をする。 ②気付いたこと等をワークシートに記入する。 ③協力して、わかったことを整理する。 ・がんの予防のために健康によい生活習慣を送ることが大切であることを押さえるが、どれだけ予防をしてもがんになってしまうことがあることも説明する。(T1)	ワークシート

<p>③がんは治すことができるの？ (早期発見)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・がんは小さいうちに治療をすれば、ほとんど治る。 ・小さいうちにがんを見つけることが大切。 ・がんが小さいうちは自分では気づきにくい。 </div> <p>4 調べた結果やまとめたことをグループで伝え合う</p> <p>①どうしてがんになるの？ (原因)</p> <p>②がんにならないためにどうすればいいの？ (予防)</p> <p>③がんは治すことができるの？ (早期発見)</p> <p>5 健康のためにできることをグループで話し合う。</p> <p>6 グループで話し合ったことを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・がんは、命にかかわる病気であるが、絶対に治らない病気ではないことを伝える。(T 3) ・同じ課題に取り組むグループで、情報交換をしてまとめさせる。(T 1～3) <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞き合い、課題ごとに調べたことを課題別のグループの中で共有させる。(T 1) <ul style="list-style-type: none"> ・今まで学習してきたことをもとにして、健康のために自分たちができることを話し合わせその理由も明らかにさせる。 ・発表を聞くことで多様な考えに触れさせる。(T 1) <p>☆健康な生活を続けるために必要な知識や行動の仕方等について理解している。 【知識・技能】</p>	短冊
<p>(決める)</p> <p>10分</p> <p>7 本時のまとをする。</p> <p>8 学んだことを生かして「20才の自分に向けて」のメッセージを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・がんの早期発見のためには、がん検診が重要であることも伝える。(T 2) ・がんを身近なこととして考え、正しく理解することができた児童を称賛し、健康の大切さを押さえる。(T 1) ・「がんの予防」「がんの早期発見」「がん検診」に関する事が書けるように声かけをする。(T 1～T 3) 	ワークシート

(3) 板書計画

課題

がんを正しく理解し、自分ができることを考えよう



☆健康のためにできること

短冊

がんにかかる人の割合

アンケート結果

まとめ

○ 本時の学習と指導 (2 / 2時)

(1) ねらい

身近な人ががんになった時に自分にできることを話し合い、自らの解決方法を意思決定するとともに、人の思いや命の大切さについて考えることができる。

(2) 展 開

時間	学習内容・活動	・指導上の留意点 ☆評 価	資料等
<p>(つかむ)</p> <p>5分</p>	<p>1 がんについて前時の学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんの原因・がんの予防 ・がんの早期発見、検診 <p>2 身近な人ががんにかかった時の気持ちを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・悲しい ・つらい ・早く治療をして治ってほしい </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で学習した内容を想起させる。 ・自分の身近な人ががんになった時、どんな気持ちになるか想像させる。 ・どのような気持ちになるか数人に発表させる。 ・「悲しい」「つらい」など暗い気持ちでいるだけでなく、自分にできることはないか考えさせる。 	(写真)
<p>(さぐる)</p> <p>15分</p>	<p>3 本時のねらいを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>身近な人ががんになった時、自分にできることを考えよう。</p> </div> <p>4 身近な人ががんになった時に自分にできることを考えワークシートに記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・励ます。 ・時間を大切にする。 ・一緒にたくさんでかける。 </div> <p>5 グループで考えを伝え合う。</p> <p>6 ゲストティーチャーの話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人ががんになった時に自分にできることを考えさせ、ワークシートに記入させる。 ・何を書いたらいいのか分からない児童には、身近な誰かを具体的にイメージさせて、自分にできることはないかを考えさせる。 ・お互いの考えを認め合いながら話し合いをさせ、多様な考えに触れさせる。 ・グループの考えをホワイトボードにまとめさせる。 ・児童の実態に合わせて、わかりやすい言葉づかいで<u>がんにかかった人がどのような生活を送っているか、がんにかかった人や家族とどのように関わってきたか</u>について話をしてもらおう。 ・自分の考えを踏まえた上で、自分たちにできることについて考えながら 聞くという視点をもたせる。 	<p>ワークシート</p> <p>ホワイトボード</p>

<p>(見つける)</p> <p>15分</p>	<p>7 グループで考えたことをまとめ、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーの話を聞いて自分のグループの考えを見直し、付け足したり、考えが変わったりしたところなどをホワイトボードに書く。 ・まとめにつながるような言葉を意識して取り上げるようにする。 <p>☆身近な人ががんになった時に自分にできることを話し合い、自らの解決方法を意思決定している。【思考・判断・表現】</p>	<p>ホワイトボード</p>
<p>(決める)</p> <p>10分</p>	<p>8 本時のまとめをする。</p> <p>9 がんの学習をしての振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人ががんになった時のことを真剣に考えられた児童やグループを称賛する ・児童の発表内容から共生に関わる内容を取り上げ、がんだけにとらわれず、相手の気持ちに寄り添って接すること、お互いの命を大切にすることについてまとめる。 ・がんについての学習を振り返らせ、学んだこと、感じたこと、これから自分が取り組むことを意思決定する。 	<p>ワークシート</p>

令和元年度がん教育授業研究会（川越市立霞ヶ関小学校）アンケート結果

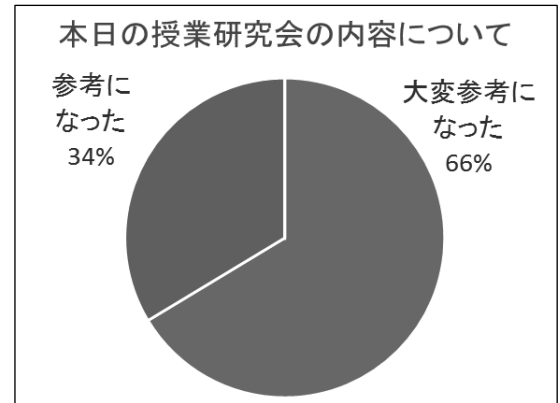
【本日の授業研究会の内容について】

「大変参考になった」「参考になった」

<理由>

○授業内容について

- ・ジグソー法を取り入れ、主体的に授業に参加できる工夫がされていた。
- ・保健の学習後に学級活動で「がん」について学習することで生活習慣の大切さやがんに対する正しい知識をより深める流れであった。本校でも取り入れたい。
- ・がん教育を特別活動として行う授業の計画や展開の仕方など、これからがん教育を進めていく上で、参考になった。
- ・がんという病気について正しく理解し健康や命の大切さを学ぶことができた授業だった。
- ・授業の内容が、20才の自分へのメッセージとなって心に残る授業となったと思う。
- ・小学生でジグソー法をやるのは難しいと感じた。
- ・身近な病気であるがんについて、児童にわかりやすく、興味をもてる方法を取り入れていた。
- ・説明を受けてきたことを自分の班に戻って自分たちの言葉で表現するのは難しいかと感じていたが、主体的・対話的な活動がきちんとできていた。
- ・授業の始めに子供への配慮をしていたことが心に残った。
- ・ジグソー法で役割を与えられてことにより、どの子も真剣に取り組んでいた。
- ・丁寧に授業をしていて素晴らしい。先生方の教材研究が十分に行われた成果だと感じる。
- ・話し合い活動にもっと時間をとると内容が深まると思った。
- ・自分が学んできたことを他の友達に話すことで知識が定着すると思う。
- ・最後の「決める」活動で、手紙を書かせるというのを取り入れたい。
- ・まとめのところで一人一人の先生から説明する場面があればより良かったと思う。
- ・中学校でも十分生かせる指導内容であった。
- ・特別活動として意欲的に調べて、話し合っ、深めて、最後に決定できてとても効果的だった。
- ・がん教育を重く、暗いイメージでとらえていたが、がん教育のハードルが下がった。
- ・子供たちにとっては遠いイメージのようで、今すぐ何かをしようという気持ちが少なかったと感じた。「明日からできること」と近い目標を考えさせてもよいのではと感じた。
- ・児童の記憶に強く残る授業だったと思う。
- ・ジグソー法を用いて、班メンバーが学んだことをシェアしている様子、友達の話聞いて健康に生きることに主体的に学んでいる様子が大変印象的だった。
- ・健康な生活を続けるためには、小学校のうちからこのような取組を行うのは必要だと思う。
- ・友達に伝えるという作業があることで、よりしっかりと聞こうという意識が高まっていたのではないかと思います。
- ・色別のミッションで聞いてきたことを班の子に話すときに落ちているところもあったが、何よりも話し合い活動の中で自分に今何ができるのかをよく考えていて、主体的な授業であった。
- ・保健のまとめのような終わり方でなく、身近な部分の意思決定につながられるとより良いと思う。
- ・今日学習したことが保護者にも伝わるのではないかと思います。



○児童について

- ・自分の意見を自由に発言できることから学級づくり、授業力、指導力のすばらしさを感じた。
- ・3つのグループで学習してきたことを一生懸命伝えようとする姿が印象的だった。
- ・霞ヶ関小学校の児童が本校に上がってくるのでどんな授業を行ってきたかを理解することができた。
- ・普段から子供たちが意欲的に学習に取り組んでいる様子がうかがえた。
- ・自分たちから学ぼうという意欲が見られた。
- ・班ごとに活発な話し合い活動ができていた。
- ・各ミッションの短時間の説明で、たくさんの内容をメモしていて、伝えることができていたので、普段から聞き取り、メモをする力が育っているなど感心した。

○教材・教具について

- ・手作りの資料が分かりやすく、子供たちの興味を引いていた。
- ・ワークシートの工夫や板書の仕方が参考になった。
- ・手作りの教材はがんに対する怖いイメージを和らげてくれるような感じでも良いと思った。
- ・掲示資料やワークシートは素晴らしい工夫が見られ、参考にしたいと思った。
- ・シートの色分けをしたことで平等感が出て良かった。
- ・3人の先生方の個性の出る手作り教材はぬくもりがあり、怖いイメージのがんをソフトに伝えられていた。
- ・3つのグループで説明の際に使った図を配布し、自分の班で見せながら説明するとよいと思った。

○養護教諭と担任（T1、T2）の3人体制について

- ・養護教諭が専門的な立場から検診について話をし、子供たちだけではなく、家族で予防するためにも良い授業だと感じた。
- ・養護教諭としての授業のかかわり方も考えることができた。
- ・資料の提供や教材の作成で担任をサポートしていったり自分自身の知識を深めたりして子供に伝えられるようにしたい。
- ・自分たちが主体的に学んだことを最後に養護教諭がまとめたことですと児童の中に入りやすかったのではと思う。
- ・難しい言葉を使わず、児童の理解力に合わせた簡潔な言葉選びがよかった。

○研究協議について

- ・どこまで専門性を求めるかという課題が出てきた。
- ・他校の先生方と協議をすることで、違った意見やアイデアも出て、自分の中でも新しい考え方ができた。

【がんに関する授業を実施するにあたっての課題】

- ・特別支援学校（知的高等部）におけるがんに関する授業の指導法。特別支援学校での指導の難しさを感じる。
- ・身近にがんの罹患者がいる場合や、本人ががんを経験している場合等の配慮。
- ・がん教育の必要性を全教職員で認識すること。
- ・教員ががんに対する正しい知識を習得すること。
- ・年間計画の見直し。
- ・教員向けの研修が必要。
- ・「がんは治らない」というイメージから、治る確率が高くなっていること、予防ができること、といった正しい知識を伝えていくことが大切。
- ・保護者への理解・啓発について。
- ・一つの教科や領域にゆだねるのではなく学校活動全体において取り組むこと。
- ・健康であることが当たり前だと思っている子供たちにいかに自分の事として考えさせることができるか。
- ・小学校から高等学校までの指導すべき内容を、教える側がしっかり把握しておく必要がある。
- ・小・中の連携。
- ・教職員が必要性を感じていないため積極的に授業に取り入れようとしていない。
- ・子供たちが知識を得るだけで終わらず、実生活に生かしていけるか工夫していくことが大切だと思った。
- ・養護教諭とTTで授業をする場合の役割分担。
- ・養護教諭として資料や情報の収集。
- ・配慮を要する子供の把握と対応。
- ・教師一人に任せるのではなく、ほかの教員や専門的な方との連携をして、複数で授業できるとよいと思う。
- ・配慮が必要な子への指導では言葉選びが難しい。
- ・発達段階に応じてどこまで詳しく知識を伝えたらよいのかの線引き。
- ・授業者が一から知識を得るのは、大変なことなので、専門家のサポートが手軽にいただけるシステムが重要だと思う。

2 深谷市立川本中学校

文部科学省委託事業「がん教育総合支援事業」

令和元年度埼玉県「がん教育」授業研究会(中学校)実施要項

1 趣 旨

日本人の死亡原因として最も多いがんについて、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であり課題であると指摘されている。

この課題解決のためには、児童生徒が学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるように指導することが必要である。

そこで、学校におけるがんに関する指導の充実を図るため、発達の段階に応じた適切な指導が実施されるよう、授業研究会を開催し、研究協議を行う。

2 主 催 埼玉県教育委員会

3 期 日 令和元年10月16日(水)

4 会 場 深谷市立川本中学校 深谷市田中530
(秩父線「武川駅」下車、徒歩10分 駐車場より徒歩10分)

5 参加対象者 中学校教職員(保健体育科、養護教諭、保健主事等)、県立特別支援学校教職員、及び指導主事

6 日 程

- | | | |
|----------|---------------|---------|
| (1) 受 付 | 13時00分～ | (体育館) |
| (2) 全体会 | 13時15分～13時35分 | (体育館) |
| (3) 公開授業 | 13時45分～14時35分 | (体育館) |
| (4) 研究協議 | 15時00分～16時30分 | (体育館) |

7 公開授業

学年	授業者	単元名
2年	石山 絵理 教諭 朽原 若菜 養護教諭	保健体育(保健分野) 「(4) 健康な生活と疾病の予防」 イ 生活行動・生活習慣と健康

8 指導者及び役員

埼玉県教育局県立学校部保健体育課	課 長	伊藤 治也
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	主席指導主事	駒崎 弘匡
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	指 導 主 事	馬場久美子
埼玉県教育局北部教育事務所	指 導 主 事	阿久津広真
深谷市教育委員会教育部学校教育課	課長補佐兼指導主事	新井 知章

埼玉県がん教育授業検討委員会委員

埼玉大学教育学部	准 教 授	七木田文彦
埼玉医科大学総合医療センター	教 授	儀賀 理暁
松伏町立松伏中学校	教 諭	中村 美紀
熊谷市立荒川中学校	養 護 教 諭	根岸 幸代

保健体育科（保健分野）学習指導案

令和元年10月16日（水） 第5校時 体育館
第2学年1組 男子18名 女子20名 計38名
指導者 (T1) 教諭 石山 絵理
(T2) 養護教諭 朽原 若菜

1 単元名 「健康な生活と疾病の予防」 イ生活行動・生活習慣と健康

2 単元について

「健康な生活と疾病の予防」（本単元）では、人間の健康は、主体と環境がかかわりあって成り立つこと、健康を保持増進し、疾病を予防するためには、それにかかわる要因に対する適切な対策があることについて理解させなければいけない。本単元のうち「イ 生活行動・生活習慣と健康」では、健康と生活行動は深く関わっており、食生活、運動、休養及び睡眠のそれぞれと健康との関係について理解できるようにさせる。また、健康を保持増進するためには、調和のとれた生活を続けることが必要であること、不適切な生活習慣はやせや肥満などを引き起こしたり、生活習慣病を引き起こす要因となったりし、生涯にわたる心身の健康に様々な影響があることについても理解させる。特に我が国の重要な健康課題となっているがんについては重点的に取り扱うこととする。

生涯のうち国民の二人に一人がかかるとされるがんは重要な課題であり、健康に関する国民の基礎的教養として身に付けておくべきものとなりつつある。また、がん対策基本法（平成18年法律第98号）の下、政府が策定したがん対策推進基本計画（平成24年6月）においても、がんの予防の推進を図るため、学校において児童または生徒ががんに関する正しい知識について理解を深めるための教育に関する施策を講じることが記載されており、がん教育の充実が求められている。

本単元は、がんは身近な病気であるということを理解させ、予防や早期発見・検診についての関心をもち、正しい知識を身に付けた上で適切な対処ができるようになるとともに、がんを通じて様々な病気についても理解を深め、健康の保持増進に資することを目標としている。

3 生徒の実態

(1) 一般的な生徒の実態

本学級は、明るく素直な生徒が多く、仲間と協力しながら活動に取り組むことができる。学習に対しても前向きに取り組む、意欲的に発表することができる生徒が多い。

保健体育における保健分野の授業に対する関心は高く、積極的に学ぼうという姿勢が多くの生徒に見られる。しかし、基礎的な知識の理解が不十分なため、人前で発言することが苦手な生徒も見られる。

(2) 本単元に関わる生徒の実態（アンケート調査から）

7月に行った、がんに関するアンケートの結果は以下のとおりである。

① がんに関する学習について

質問	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば 思わない	そう 思わない
がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。	28	6	1	1
がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ。	28	6	1	1

② がんに関する知識について

質問	正しい	誤り
がんは誰もがかかる可能性のある病気である。	33	3
がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある。	36	0
がんは日本人の死因の第2位である。	32	4
たばこを吸わないこと、バランスよく食事をすること、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある。	36	0
早期発見すればがんは治りやすい。	35	1
体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い。	6	32
がんの治療法には手術治療しかない。	9	27
がんの痛みは我慢するしかない。	3	33

③ がんに対する意識について

質問	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば 思わない	そう 思わない
自分はがんにならないと思う。	3	11	10	12
将来、たばこは吸わないでいようと思う。	33	2	1	0
日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。	30	6	0	0
がん検診を受けられる年齢になったら検診を受けようと思う。	23	11	1	1
がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。	13	10	7	6
がんになっても生活の質を高めることができる。	13	11	8	4
がんになっている人も過ごしやすい世の中にした	31	4	1	0
がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。	22	9	4	1
家族や身近な人が健康であってほしいと思う。	34	2	0	0
長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。	34	2	0	0

※7月18日36名実施

がんの学習について、「重要だと思う」と回答している生徒が、77%、「役立つと思う」と回答している生徒が77%であり、「どちらかというそう思う」と回答している生徒を含めると、多くの生徒ががんの学習について肯定的回答をしている。がんに関する知識については、おおむね正しい回答をしているが、「日本人の死因の順位」、「治療法」については、他の設問と比較し、誤答が多い。

ほとんどの生徒が「がんは誰でもかかる可能性がある病気である」と回答しているが、38%が「自分はがんにならないと思う」と回答している。また、「がんの治療方法は、医師が決めるものである。」については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒が63%いる。

以上の結果から、がんに対してある程度正しい知識を身に付けている生徒が多いものの、自分自身の生活とは無関係だと思っている生徒もいることがわかった。

4 教師の指導観

がん教育の授業を通して、がんについて正しく理解することができることや、健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにすることを身に付けさせたい。

また、生徒の実態を踏まえて、自分の考えを仲間の前で発表したり、他者の考えを聞いて共有したりする場面を設定することによって、自分の考えや知識を深めて活用する力を身に付けさせたい。

本単元の特性と生徒の実態から、以下のような授業を展開したい。

◎主体的・対話的で深い学びを実現する授業

◎よりよい生活行動・生活習慣について、知識を活用した学習活動により、思考を促す授業

◎生活習慣病とその予防方法、がん検診の必要性について正しい知識が身に付き、理解が深まる授業

これらの授業を実現するための具体策を以下に示す。

○特別活動・道徳の授業との連携

がん教育は、保健体育の授業のみならず、他教科等との連携を図りながら、生徒の生活改善・実践意欲の向上につなげることが重要である。

事後指導として学級活動では、「がん患者への理解と共生」について、保健体育で学習したことを深めるために、本校の学校総合支援員（がん経験者）と連携して指導を行う。道徳の授業では、「天使の舞い降りた朝」をもとに、生命の尊さについて担任が授業を実施する。

○養護教諭との連携（チームティーチング）

がんに関する科学的根拠に基づいた知識などの専門的な内容を含むがん教育を進めるために、養護教諭と連携して授業を実施する。

○「がん教育推進のための教材（文部科学省）」の活用

基礎的知識を正しく習得させるために文部科学省が作成した「がん教育推進のための教材 指導参考資料」中学生・高校生版「スライド教材」を積極的に取り入れて、ICTを活用する。

○身近にがん経験者がいる生徒への配慮

身近にがん経験者がいる場合は、事前に保護者向けの通知を配布して授業概要を説明し、途中で辛くなった場合は離席してもよい旨を伝えた。

5 単元の目標

(1) 生活行動・生活習慣と健康について関心をもち、学習活動に積極的に取り組むことができるようになる。 【関心・意欲・態度】

(2) 生活行動・生活習慣と健康について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表すことができるようになる。 【思考・判断】

(3) 生活行動・生活習慣と健康について、基礎的な事項及びそれらと生活とのかかわりを理解することができるようになる。 【知識・理解】

6 単元及び学習活動に即した評価基準

	ア 健康・安全への 関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての 思考・判断	ウ 健康・安全についての 知識・理解
評価 規 準	生活行動・生活習慣と健康について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	生活行動・生活習慣と健康について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表している。	生活行動・生活習慣と健康について、基礎的な事項及びそれらと生活とのかかわりを理解している。
学 習 活 動 に 即 し た 評 価 規 準	① 健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ② 課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	① 健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見つけたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 ② 学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	① 食生活と健康について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ② 運動と健康について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ③ 休養及び睡眠と健康について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ④ 調和のとれた生活と健康について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ⑤ がんの発生要因とその予防やがん検診の大切さについて理解したことを言ったり、書き出したりしている。

7 単元の指導と評価の計画【5時間扱い+2時間（特別活動・道徳）】 本時は○印5/5時
【保健体育（保健分野）】

時	学習のねらい・活動	関	思	知	評価方法
1 食 生 活 と 健 康	I ねらい ・健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組むことができる。 ・食生活と健康について理解したことを言ったり、書き出したりすることができる。 II 学習活動 1 健康を保持増進するための食生活について考える。 2 健康を保持増進するための食事や配慮すべきこと、運動に応じたエネルギーの補給について説明を聞く。 3 自分の食生活について考える。	①			〈関・意・態①〉 (学習活動3) 健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。【観察】

	<p>4 本時の学習を振り返り、ワークシートにまとめ、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活や疾病の予防には、毎日適切な時間に食事をする必要があること。 ・年齢や運動量に応じて栄養素のバランスや食事の量などに配慮することが必要であること。 ・運動によって消費されたエネルギーを食事によって補給することが必要であること。 </div>		①	<p>〈知・理①〉 (学習活動4) 食生活と健康について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 【観察・ワークシート】</p>
<p>2 運動と健康</p>	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つめたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明することができる。 ・運動と健康について理解したことを言ったり、書き出したりすることができる。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 運動不足が体に及ぼす影響について考える。 2 運動が心に及ぼす影響について考える。 3 運動の効果（身体面・精神面）と健康の保持増進のための適切な運動について説明を聞く。 4 自分の生活（運動量など）について考える。 5 本時の学習を振り返り、ワークシートにまとめ、発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動には、身体の各器官の機能を刺激し、その発達を促すとともに、気分転換が図られるなど、精神的にもよい効果があること。 ・健康な生活や疾病の予防には、日常生活において適切な運動を継続することが必要であること。 </div>		②	<p>〈思・判②〉 (学習活動4) 学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つめたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。 【ワークシート】</p> <p>② ② 〈知・理②〉 (学習活動5) 運動と健康について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 【観察・ワークシート】</p>
<p>3 休養及び睡眠と健康</p>	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つめたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明することができる。 ・休養及び睡眠と健康について理解したことを言ったり、書き出したりすることができる。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 疲労が心身に及ぼす影響について考える。 2 心身の疲労を回復する方法について考える。 3 休養及び睡眠の効果ならびに健康の保持増進のための適切な休養及び睡眠について説明を聞く。 			<p>〈思・判②〉 (学習活動4) 学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つめたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。 【ワークシート】</p>

	<p>4 自分の生活における休養や睡眠のとり方について考える。</p> <p>5 本時の学習を振り返り、ワークシートにまとめ、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長時間にわたる学習、運動、作業は、疲労やストレスをもたらし、心身の不調や病気を引き起こすこと。 ・健康な生活や疾病の予防には、休養及び睡眠によって心身の疲労を回復することが必要であること。 </div>	②	<p>③</p> <p>〈知・理③〉 (学習活動5)</p> <p>休養及び睡眠と健康について理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p> <p>【観察・ワークシート】</p>
<p>4</p> <p>調和の取れた生活と生活習慣病</p>	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見つけたり、選んだりするなどして、それらを説明することができる。 ・調和のとれた生活と健康について理解したことを言ったり、書き出したりすることができる。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 望ましい生活習慣について考える。 2 健康と生活習慣の関連、調和のとれた生活の必要性、生活習慣の乱れによる生活習慣病など、生活習慣が健康に及ぼす影響について説明を聞く。 3 今後、実践できる生活習慣の改善について考え、発表する。 4 本時の学習を振り返り、ワークシートにまとめ、発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の健康は生活行動と深くかかわっており、健康を保持増進するためには、年齢、生活環境等に応じた食事、適切な運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けることが必要であること。 ・食生活の乱れ、運動不足、睡眠時間の減少などの不適切な生活習慣は、やせや肥満などを引き起こしたり、生活習慣病を引き起こす要因となったりし、生涯にわたる心身の健康に様々な影響があること。 </div>	①	<p>④</p> <p>〈思・判①〉 (学習活動3)</p> <p>健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見つけたり、選んだりするなどして、それらを説明している。</p> <p>【ワークシート】</p> <p>〈知・理④〉 (学習活動4)</p> <p>④ 調和のとれた生活と健康について理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p> <p>【観察・ワークシート】</p>

<p>⑤</p> <p>がんの発生要因と予防</p>	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんの発生要因とその予防や、がん検診の大切さについて理解したことを言ったり、書き出したりすることができる。 ・課題の解決にむけての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができる。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 がんについての○×問題を解く。 2 本時の学習内容を知る。 3 がんの要因について話を聞く。 4 がんの予防について、「深谷市の取組」について話を聞く。 5 「望ましい生活習慣」を実践するための、5つの生活習慣について、グループで話し合う。 6 望ましい5つの生活習慣について確認をする。 7 「20年後の自分へ」の手紙を書く。 8 「20年後の自分へ」を発表する。 9 教師の話を聞く。 	<p>②</p>	<p>⑤</p>	<p>〈関・意・態②〉 (学習活動5) 課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>【観察】</p> <p>〈知・理⑤〉 (学習活動7) がんの発生要因とその予防やがん検診の大切さについて理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p>
	<p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんは異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあること。 ・がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であること。 ・がんは健康診断やがん検診などで早期に異常を発見できること。 			

事後指導 【特別活動（11月）道徳（11月）】

	学習のねらい・活動	留意点・評価
特別活動	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん患者や家族の思いや悩みに気づき、望ましい関わり方について考え、理解することができるようにする。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保健体育（保健分野）におけるがんに関する内容を復習する。 2 ゲストティーチャー（がん経験者）の話を聞く。 3 ゲストティーチャー（がん経験者）の話をもとに、がん患者への理解と共生について考える。 4 本時の振り返りをする。 	<p>○身近にがん経験者がいる生徒には事前に声がけをするとともに、授業中も観察し、十分配慮する。</p> <p>○保健体育（保健分野）におけるがんに関する事項を確認しながら、正しい知識が、がん患者への正しい理解や関わり方につながることを伝える。</p>
道徳 天使の舞い降りた朝	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重する態度を育てる。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「末期の乳がん」について知る。 2 資料「天使の舞い降りた朝」を読む。 3 「僕」に病状を告げる母の思いについて考える。 4 「僕」の覚悟には、どのような思いが込められているのかについて考える。 5 命について、考えたことをまとめる。 	<p>○身近にがん経験者がいる生徒には事前に声がけをするとともに、授業中も観察し、十分配慮する。</p> <p>○人の命は有限であり、かけがえのないものであることを理解できたか。</p> <p>○自分とのかかわりで、生命を尊重することをとらえられたか。</p>

8 本時の学習と指導（5／5）

(1) ねらい

- ・課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができる。

【関心・意欲・態度】

- ・がんの発生要因とその予防や、がん検診の大切さについて理解したことを言ったり、書き出したりすることができる。


【知識・理解】

(2) 準備

- ・ワークシート ・パソコン ・移動式スクリーン ・ホワイトボード ・掲示資料
- ・ホワイトボード用ペン

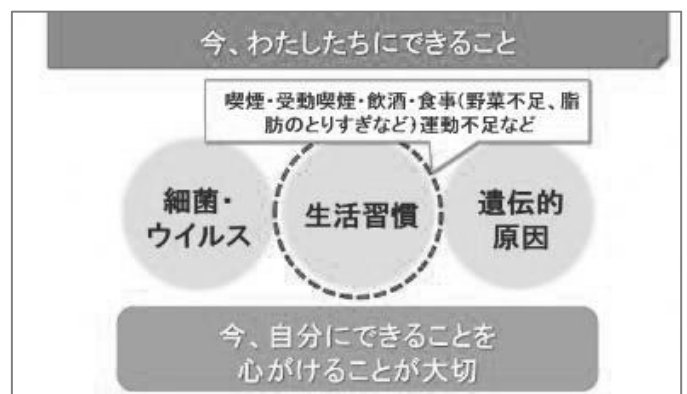
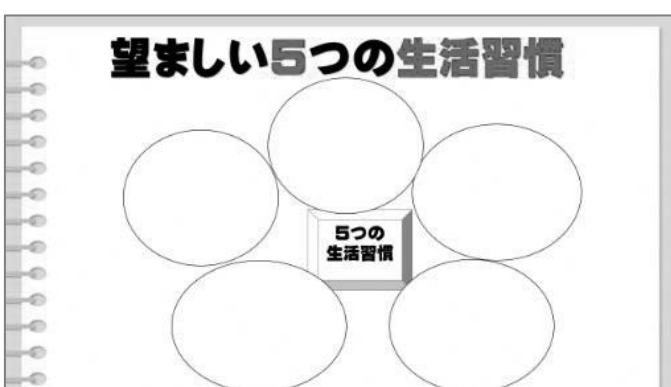
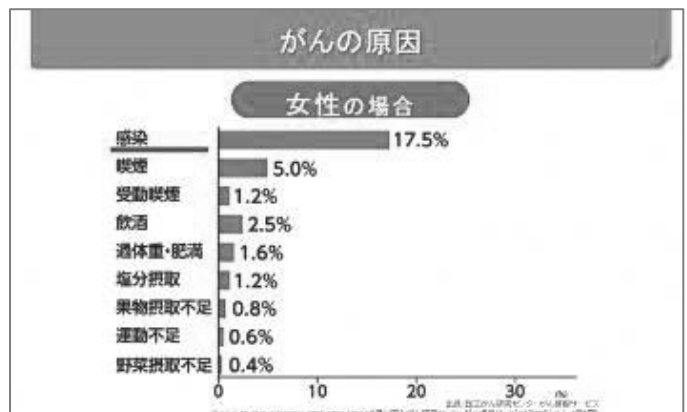
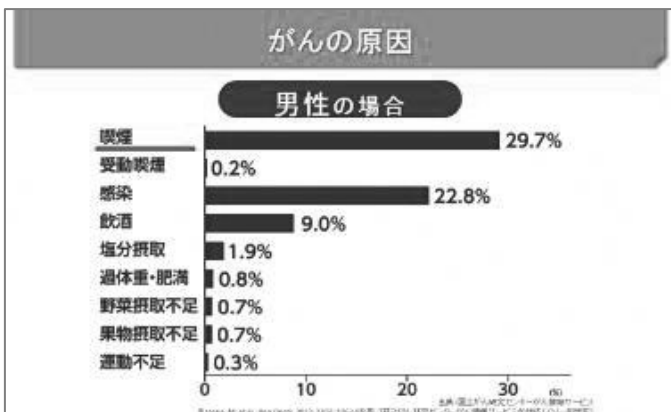
(3) 展開

時間	学習内容・活動	指導上の留意点 (○指導 ◆評価規準)
導入 5分	1 前時までに学習した内容をもとに、○×問題を解く。 2 本時の学習内容を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> がんについて正しく理解し、 予防について考えよう。 </div>	○前時までの学習の理解度と、がんについての理解度を確認する。(T1) ○がんの認識として間違いやすい、知らないであろう内容を問題にし、興味関心を引き出させるようにする。 ○個人で回答を記入させる。 ○生徒の反応を観察する。(T2) ○本時の目的や学習内容について理解させる。(T1)
展開 I 25分	3 がんの要因について話を聞く。 (1) がんのしくみ (2) がんの原因 (3) 日本のがんの現状	○問題の答え合わせをしながら、パワーポイントの画面をもとに説明を行う。(T1・T2) ○がんの要因について正しく理解させるとともに、自分の身近な問題であることに気づかせる。 ○がんの発生には生活習慣が関わっていることに気づかせる。
<p><指導すべき内容></p> <ul style="list-style-type: none"> がんは異常な細胞であるがん細胞が増殖する疾病であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあること。 		
	4 がんの予防について、「深谷市の取組」について話を聞く。 5 「望ましい生活習慣」を実践するための、5つの生活習慣について、グループで話し合う。 (1) ワークシートに自分の考えを書く。 (2) グループ内で発表し合う。	○がんの予防について、深谷市が取り組んでいることについて説明をする。(T1) ○机間指導を行う。(T1・T2) ◆がんの発生要因とその予防について理解したことを、言ったり書き出したりしている。 <div style="text-align: right;">【知識・理解】</div> ◆課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 <div style="text-align: right;">【関心・意欲・態度】</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「努力を要すると判断される状況」(C)の生徒への手立て(支援) 話し合いに参加できない生徒には、グループ内での他者の発表内容を確認させる。</p> <p>「十分満足できると判断される状況」(A)の生徒の具体的な姿 自分の考えをまとめしっかりと発表できる。人の考えも理解している。</p> </div>

<p>展開Ⅱ</p> <p>15分</p>	<p>6 望ましい5つの生活習慣について確認をする。</p>	<p>○パワーポイントの画面をもとに説明を行う。(T1)</p> <p>○望ましい生活習慣を実践していても、がんにならないとは限らないこともあることについて、説明を行う。(T2)</p> <p>○がんは自覚症状の出にくい病気のため、早期に発見するためには、がん検診を適切に受けることが重要であることに気づかせる。(T2)</p>
	<p><指導すべき内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であること。 ・がんは健康診断やがん検診などで早期に異常を発見できること。 	
<p>終末</p> <p>5分</p>	<p>7 「20年後の自分へ」の手紙を書く。</p> <p>(1) ワークシートに自分の考えを書く。</p> <p>(2) グループ内で発表し合う。</p> 	<p>○本時の学習を踏まえて、自分の考えをワークシートに書かせる。(T1)</p> <p>○机間指導を行う。(T1・T2)</p> <p>◆がんの予防や、がん検診の大切さについて理解したことを、言ったり書き出したりしている。</p> <p style="text-align: right;">【知識・理解】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「努力を要すると判断される状況」(C)の生徒への手立て(支援) 板書やワークシートを参考に本時の学習内容を振り返りながら、記入させるようにする。</p> <p>「十分満足できると判断される状況」(A)の生徒の具体的な姿 がんを予防するためには、生活習慣を整えることやがん検診を受けることが有効であることをもとに言ったり、書き出したりしている。</p> </div> <p>8 「20年後の自分へ」を発表する。○代表の生徒に発表させる。(T1)</p> <p>9 教師の話聞く。○本時のまとめを行い、がんを予防するための望ましい生活習慣と検診の必要性について再確認する。(T1・T2)</p> <p>○ワークシートを回収し、まとめた内容についての補足や指導の必要な生徒には、個別に指導する。(T1・T2)</p>

(4) 板書計画

がんについて正しく理解し、予防について考えよう。



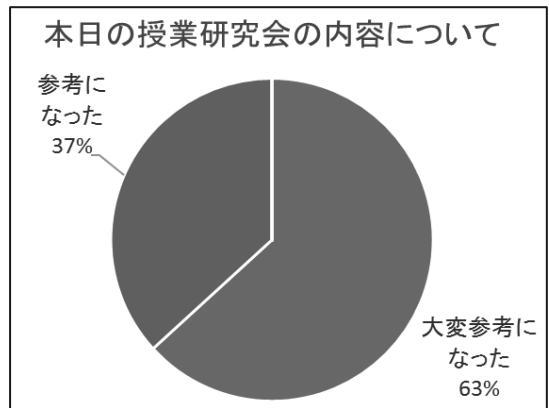
【本日の授業研究会の内容について】

「大変参考になった」「参考になった」

<理由>

○授業内容について

- ・授業の終わりに学習したことをただ振り返るだけでなく、「20年後の自分へ」という手紙を書いたことにより、自分自身の事として考えられていた。
- ・1時間の授業を通して、生徒の意識の高揚が見られた。
- ・授業のテンポがよく、生徒もよく集中していた。
- ・事前の準備が入念にしてあるのがよくわかった。
- ・がんについて、ポイントを絞って簡潔にわかりやすく説明をした上で、生徒に生活習慣の大切さや早期受診の必要性を考えさせる授業展開であったので、生徒の理解も深まっていた。
- ・前時までの学習が生きていて、実生活に結び付く内容であった。
- ・具体的な数値を示し、がんがとても身近な病気であることを生徒たちは実感していた。
- ・文部科学省が作成した教材を活用していて、本校でも取り入れやすいと思った。
- ・話し合いを取り入れ、生徒がしっかりとした態度で授業に取り組んでいて、先生方の日頃の指導や生徒との関係がしっかりとしている様子が伝わってきた。
- ・がんの原因のグラフや検診で発見できるがんの大きさなど、具体的な言葉や数値が出ることにより、生徒にとってわかりやすくなっていた。
- ・中学生の時期にがんについて正しい知識を身に付けさせ、正しい生活習慣をつけていくことの大切さを実感した。
- ・子供たちとのやり取りのテンポがよく、先生方のやわらかい表情が素敵だった。
- ・他教科との連携についても参考になった。
- ・何年後かに周りの方ががんになり人生について考えるときに本日の授業を思い出し、何らかの形で活用できたとき、この授業の本当の意味がわかる生徒が多いと思えるような授業だった。
- ・知識としてしっかりと身に付けやすい授業であり、将来の自分へつなげることで主体的な活動になっているところが参考になった。
- ・実際に授業を見て、資料や子供たちの反応、先生同士や生徒とのかけ合い等を見ることができてとても参考になった。
- ・「20年後の自分はどうなっている？」から始めて、「健康でいたい」と思わせる。そのためには…という風に展開してもよいかと思った。
- ・20年後の自分に手紙を書く活動で、1時間の授業内容についての理解を確認できるのでとても良いと思った。
- ・20年後の自分への手紙は、中学生にとってずっと先の事と考えがちになるが、20年後に目を向けて生活させることは効果が高いと感じた。
- ・小学校と中学校の授業の違い等も参考になった。
- ・不安をあおってはいけないという配慮をしながらの授業展開について考える契機となった。
- ・教える内容と、考えさせる内容のバランスが良かった。
- ・中学校での内容だが、小学校6年生でももう少し内容を簡単にすれば実践できそう。
- ・予防や早期発見のための検診の受診など、現在や将来の実践行動につながる授業だった。
- ・保健で5時間をかけて充実させてきめ細やかな指導となっていた。
- ・主体的・対話的で深い学びに適した教材であった。
- ・板書を書くのではなく映し貼ることで生徒の町の時間がなくスムーズに展開が進んでいてよかった。
- ・生活習慣の大切さを扱う中で、生活習慣に注意していてもなってしまうがんについても触れるなどの配慮がなされていてよかった。
- ・二人に一人ががんになるとわかった後の子供たちの反応やそのあとのスライドを見る姿勢が一気に変わった。4時間目までの授業も気になった。
- ・すでにごんに関する知識があったので、もう一步踏み込んだ内容や事例があるとよい。
- ・生徒に正しい知識を身に付けさせるという部分では、○×クイズや、説明が長くなっても仕方ないのかと思う。
- ・「感染」については、もう少し説明してもよかった。（がんの人に近づかない方がいいと思ってしまう子もいると思うので）
- ・基本的な生活習慣が大切だということを伝えられた。そして、心の片隅に検診を受けることの大切さを伝えたことに意味があると思う。今後は特別活動として授業をすることで、わかっているけど…ではなく、実践できる力をつけることが大切だと思う。



○生徒について

- ・生徒たちの学ぼうとする姿勢が気持ちよかった。
- ・各班で手紙を読み合っているときに、「なんか、感動した…」と言っていた子がいた。日頃から暖かいクラスなのだろうな、と思った。
- ・授業規律が素晴らしく、素直でまじめな様子がよく伝わってきた。
- ・生徒が大変落ち着いていてよい授業であった。
- ・積極的に発言する姿から、普段の学校生活での主体性を感じた。

○教材・教具について

- ・○×クイズで、前時までの復習がきちんとできていた。
- ・市の取組（ちらし）に触れたことによって、身近な問題として考えることができていた。
- ・場や教材の工夫などにより、生徒をひきつけていた。
- ・スライド資料を活用し、視覚的に見やすく効果的であった。
- ・ワークシートが参考になった。生徒が記入しやすく、発表もしやすい形になっていた。
- ・短時間でがんの概要を学ぶのに、適切な教材だった。
- ・スライド資料や、大きな掲示物が見やすくわかりやすかった。
- ・スクリーンの画像を掲示資料として掲示しておくことで、生徒がそれを見ながら活動することができていてよかった。

○養護教諭とのTTについて

- ・養護教諭としてまだ授業に参加したことがないので、専門的知識を身に付けて子供たちに役立つ情報をわかりやすく伝えられるように準備をしようと思う。
- ・養護教諭との役割分担が明確であった。
- ・養護教諭がどのように授業に関わっていけばよいのを考えさせられる授業だった。
- ・私自身も積極的にTTとして授業に入れるように頑張ろうと思った。
- ・TTで進めることにより、メリハリをつけることができた。
- ・もう少し養護教諭の担当する箇所があってもよかった。

○研究協議について

- ・小学校の先生の話の聞くことができ、小中連携の必要性を感じた。
- ・他校種や看護師さんとお話をする中で、がん教育の大切さを聞くことができた。
- ・それぞれの立場の方と意見交換、情報共有ができた。

【がんに関する授業を実施するにあたっての課題】

- ・子供たちにかにも自分にも関係あることだと感じさせること。
- ・身近にがんの罹患者がいる場合や、本人ががんを経験している場合等の配慮。
- ・保健体育科の教員と養護教諭の連携。
- ・教員ががんに対する正しい知識を習得すること。
- ・他の機関との連携。
- ・年間計画の見直しの徹底。
- ・ゲストティーチャーを活用する場合の時数の確保。
- ・がん＝怖いものという印象をあたえないこと。
- ・養護教諭として、どのように授業に入ると効果的なのかの検証。
- ・養護教諭として資料が提供できるように普段から連携を図っていくこと。
- ・飲酒をするとがんになると、間違った認識をしている子への対応。
- ・健全な生活習慣を送っていたにもかかわらず、がんになってしまったという身内がいるかもしれないので、すべての生徒に寄り添いながら授業を行っていくことが課題。
- ・「がん＝死」「がんになること＝自己責任」のイメージを払拭すること。
- ・がんで闘病している生徒がおり、本単元の扱い方、言葉の選び方に慎重になる。闘病中の生徒やその友人をもつ学校は特に課題がある。
- ・まずは、保健体育の保健分野、体育の保健領域の授業をしっかりと行い、質を高めることが必要。
- ・女性のがんの原因1位である「感染」の説明。
- ・今年度から外部指導者による授業を計画しているが、実施に至るまでに多くの労力を要している。継続していけるようにすることが課題。
- ・小・中・高の系統的な指導の在り方。
- ・教えるべき内容や、ゲストティーチャーの活用等考慮しなければならないことは多いが、複雑にしないことが課題。
- ・外部講師を活用する際の予算。

3 県立志木高等学校

文部科学省委託事業「がん教育総合支援事業」

令和元年度埼玉県「がん教育」授業研究会（高等学校）実施要項

1 趣 旨

日本人の死亡原因として最も多いがんについて、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であり課題であると指摘されている。

この課題解決のためには、児童生徒が学校教育を通じてがんについて学ぶことにより、健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるように指導することが必要である。

そこで、学校におけるがんに関する指導の充実を図るため、発達の段階に応じた適切な指導が実施されるよう、授業研究会を開催し、研究協議を行う。

2 主 催 埼玉県教育委員会

3 期 日 令和元年11月6日（水）

4 会 場 県立志木高等学校 志木市上宗岡1-1-1
志木市上宗岡1-1-1

5 参加対象者 高等学校・特別支援学校教職員（保健体育科、養護教諭、保健主事等）

6 日 程

- | | | |
|----------|---------------|-----------|
| (1) 受付 | 13時00分～ | (大会議室) |
| (2) 公開授業 | 13時25分～14時15分 | (物 理 室) |
| (3) 全体会 | 14時30分～14時45分 | (大会議室) |
| (4) 研究協議 | 14時45分～16時30分 | (大会議室) |

7 公開授業

学年	授業者	単元名
1年	廣瀬 恵美 教諭	保健体育（科目保健） （1）「現代社会と健康」 イ 健康の保持増進と疾病の予防 （7）生活習慣病と日常の生活行動

8 指導者及び役員

埼玉県教育局県立学校部保健体育課	課 長	伊藤 治也
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	主席指導主事	駒崎 弘匡
埼玉県教育局県立学校部保健体育課	指 導 主 事	馬場久美子

埼玉県がん教育授業検討委員会委員		
埼玉 大 学 教 育 学 部	准 教 授	七木田文彦
埼玉医科大学総合医療センター	教 授	儀賀 理暁
県立飯能高等学校	教 諭	梅田 直希
県立杉戸農業高等学校	養 護 教 諭	米本 真弓
県立けやき特別支援学校	養 護 教 諭	川端 奏子

1 単元名 (1) 現代社会と健康 イ健康の保持増進と疾病の予防 「生活習慣病とその予防」

2 単元について

本単元は、我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。

また、「イ 健康の保持増進と疾病の予防」では、以下の学習内容を生徒に理解させる。

- ①生活習慣病を予防し、健康を保持増進するには、適切な食事、運動、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を実践することが必要であること。
- ②喫煙、飲酒は、生活習慣病の要因となり健康に影響があること。
- ③薬物の乱用は、心身の健康、社会の安全などに対して様々な影響を及ぼすため、決して行ってはならないこと。
- ④感染症は時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られること。その予防には、衛生的な環境の整備や検疫、正しい情報の発信、予防接種の普及など社会的な対策とともに、それらを前提とした個人の取組が必要であること。

3 生徒観 (学習状況の実態)

明るく新しい知識に関心が高く、与えられた課題に対して積極的に行う姿が見られるクラスである。その反面、自分の興味・関心から外れた課題に対しては意欲が欠けてしまう生徒もいるため、ICT や写真を取り入れた資料を用いた授業を行い、興味・関心をもち学習している。そして、調べた内容や考えたことを人に伝える力が不足しており、グループ活動で発表やまとめの際に消極的になってしまう生徒もいるため、学習支援を要する。

「がん」について学習することは初めてであり、既有知識や理解に差があることが予想されるため、段階的学習が必要になる。

4 教師の指導観

近年では、生活習慣病の中で最も多い日本人の死亡原因は「がん」といわれ、国民の2人に1人は一生のうち何らかの「がん」にかかることと推計されている。がんは検診による早期発見・早期治療や生活習慣を整えることで9割以上が完治していることから、がん教育の目標である「①がんについて正しく理解することができるようにする」「②健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする」を今回の授業の柱とし学習させたい。そのための具体的な手立てとして、以下の3点を挙げる。

I 指導内容の明確化

学習内容を理解させ、深めるために2時間扱いとした。1時間目はがんに関する基本的・基礎的な知識を一斉教授型の授業スタイルで習得させ、根拠をもって健康な行動が取れる正しい知識を習得することをねらいとする。2時間目は、1時間目に学習した内容を踏まえ「がんは誰でもかかる可能性がある」ということをベースに、それぞれのライフステージに合わせた地域の保健所や保健センターの活動と資料を用いて、現在と未来の自分に向けたアドバイスと今後取るべき行動を考えさせたい。

II 学習内容に主体的に取り組ませるための活動

配布したワークシートや資料を用いて、個人活動で習得した知識を他の生徒と情報共有や意見交換するためのグループ学習の機会を増やし、生徒が主体的に学ぶことができる環境をつくる。

III 教材の工夫

配布物の工夫：活動の際の資料は色付きのものを使用し、グラフや写真の見やすさを重視する。また色のついた資料を使用することで、普段とは違った学習環境となり生徒の学習意欲の向上も期待できる。

ICT 機器の活用：パワーポイント教材を使用して授業を実施する。生徒に多くの情報を提示できることや視覚的に学習内容を理解させることができる。また、簡易的に提示ができるため活動の仕方が分からない生徒の手助けや、振り返りなど学習にかかる時間を確保することができる。

5 単元の目標

- (1) 健康の保持増進と疾病の予防について、健康を保持増進するためには、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることに興味をもち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。 【関心・意欲・態度】
- (2) 健康の保持増進と疾病の予防について、健康を保持増進するための課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより総合的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。 【思考・判断】
- (3) 健康の保持増進と疾病の予防について、健康を保持増進するための課題の解決に役立つ自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくための基礎的な事項を理解できるようにする。 【知識・理解】

6 単元の指導計画と評価計画

(1) 単元の観点別評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
評価規準	<p>○生活習慣病と日常の生活行動について、資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>○喫煙、飲酒と健康、薬物乱用と健康、感染症とその予防について、課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p>	<p>○生活習慣病と日常の生活行動について、資料等で調べたことを基に、課題を見付けたり、整理したりするなどして、それらを説明している。</p> <p>○喫煙、飲酒と健康、薬物乱用と健康、感染症とその予防について、学習したことを、個人及び社会生活や事例と比較したり、分析したり、評価したりするなどしている。また、筋道を立ててそれらを説明している。</p>	<p>○健康の保持増進と生活習慣病の予防には、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践する必要があること、喫煙と飲酒は、生活習慣病の要因になること、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと、喫煙と飲酒、薬物乱用の対策には、個人や社会環境への対策が必要であること、感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること、感染症の予防には、個人的及び社会的な対策を行う必要があることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。</p>
学習活動に即した評価規準	<p>①生活習慣病と日常の生活行動についての学習に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>②課題解決のために教科書などの資料から情報を集めたり、調べたり、発言したりしようとしている。</p> <p>③課題の解決に向けてのグループ学習において自己の役割に責任をもち取り組もうとしている。</p>	<p>①生活習慣病と日常の生活行動について資料等で調べたことを基に、仲間と情報を共有し、課題解決の方法を見つけている。</p> <p>②学習したことを、個人及び社会生活や事例と比較や分析、評価し、筋道を立ててそれらを説明している。</p>	<p>①がんについては、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。</p> <p>②生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。</p> <p>③喫煙と飲酒は、生活習慣病の要因となり、個人や社会環境への対策が必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。</p> <p>④薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないことや個人や社会環境への対策が必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。</p> <p>⑤感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること、その予防には、個人的及び社会的な対策を行う必要があることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。</p>

(2) 単元の指導と評価の計画 (6時間扱い) 本時2 / 6時

時	学習のねらい・活動	関	思	知	評価方法
1 生活習慣病と日常の生活行動①	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病と日常の生活行動についての学習に意欲的に取り組むことができる。 がんについては、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて理解したことを発言したり、記述したりできる。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本人の死因について考える。 成人病と生活習慣病について理解し、成人病から生活習慣病に変化したことについて確認する。 がんの基礎的知識について学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> がんの種類について 発生と流行について 起こる原因について 検査と治療について <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> がんについては、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあること 	①			<p>〈関・意・態①〉 (学習活動2)</p> <p>生活習慣病と日常の生活行動についての学習に意欲的に取り組もうとしている</p> <p>【観察・ワークシート】</p> <p>〈知・理①〉 (学習活動3)</p> <p>がんについては、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。</p> <p>【観察・ワークシート】</p>
② 生活習慣病と日常の生活行動②	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病と日常の生活行動について資料等で調べたことを基に、仲間と情報を共有し、課題解決の方法を見つけることができる。 生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりすることができる。 <p>II 学習活動 (知識構成型ジグソー法)</p> <ol style="list-style-type: none"> 前時の復習をする がんと生活習慣の関係について考える。 がんの予防と配慮について考える。 <ul style="list-style-type: none"> 一次予防について 二次予防について 各ライフステージに合った予防と配慮を考える <ul style="list-style-type: none"> 3で学習したことを共有しグループで考え、ワークシートと模造紙にまとめる。 発表をする。 <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であること 		①	②	<p>〈思・判①〉 (学習活動3)</p> <p>生活習慣病と日常の生活行動について資料等で調べたことを基に、仲間と情報を共有し、課題解決の方法を見つけている。</p> <p>【観察・ワークシート】</p> <p>〈知・理②〉 (学習活動4)</p> <p>生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。</p> <p>【観察・ワークシート】</p>

<p>3 喫煙・飲酒と健康①</p>	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喫煙は、生活習慣病の要因となり、個人や社会環境への対策が必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりすることができる。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 たばこに対するイメージを考える。 2 エキスパート活動 <ol style="list-style-type: none"> A 喫煙者・禁煙者の実態と販売状況 B 健康への悪影響 C 喫煙に対する対策 3 ジグソー活動 「喫煙者を減らすためのポスターの作成しよう。」 4 喫煙の対策についてまとめる。 <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喫煙は、生活習慣病の要因となり、個人や社会環境への対策が必要であること 	<p>②</p>		<p>③</p>	<p>〈関・意・態②〉 (学習活動3) 課題解決のために教科書などの資料から情報を集めたり、調べたり、発言したりしようとしている。 【観察・ワークシート】 〈知・理③〉 (学習活動4) 喫煙は、生活習慣病の要因となり、個人や社会環境への対策が必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりしている 【観察・ワークシート】</p>
<p>4 喫煙・飲酒と健康②</p>	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを、個人及び社会生活や事例と比較や分析、評価し、筋道を立ててそれらを説明することができる。 ・飲酒は、生活習慣病の要因となり、個人や社会環境への対策が必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりすることができる。 <p>II 学習活動 (知識構成型ジグソー法)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 お酒に対するイメージを考える。 2 飲酒の健康影響について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・短期的影響について ・長期的影響について 3 飲酒開始の要因と飲酒が引き起こす社会問題について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・2で学習したことを共有しグループで考える 4 飲酒の対策について考える。 <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲酒は、生活習慣病の要因となり、個人や社会環境への対策が必要であること 	<p>②</p>	<p>②</p>	<p>③</p>	<p>〈思・判②〉 (学習活動3) 学習したことを、個人及び社会生活や事例と比較や分析、評価し、筋道を立ててそれらを説明している。 【観察・ワークシート】。 〈知・理③〉 (学習活動2) 飲酒は、生活習慣病の要因となり、個人や社会環境への対策が必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりしている 【観察・ワークシート】</p>

<p>5 薬物乱用と健康</p>	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用について、課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができる。 ・薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないことや個人や社会環境への対策が必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりできる。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 薬物乱用の健康影響について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用の現状について ・薬物の依存性について 2 薬物乱用開始の要因と薬物乱用が引き起こす社会問題について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを共有しグループで考える 3 薬物乱用の防止と対策を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・学んだ知識を活用し現実的なものにするためにロールプレイングを行う。 <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないことや個人や社会環境への対策が必要であること 	<p>③</p>		<p>④</p>	<p>〈関・意・態③〉 (学習活動3) 課題の解決に向けてのグループ学習において自己の役割に責任をもち取り組もうとしている。</p> <p>【観察・ワークシート】 (知・理④) (学習活動2) 薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないことや個人や社会環境への対策が必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。</p> <p>【観察・ワークシート】</p>
<p>6 感染症とその予防</p>	<p>I ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること、その予防には、個人的及び社会的な対策を行う必要があることについて理解したことを発言したり、記述したりすることができる。 <p>II 学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 感染症の定義について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・新興感染症について ・再興感染症について 2 感染症の発生と流行について、理解する。 3 感染症予防の原則について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・社会的対策について ・個人的対策について 4 小テスト 5 まとめ <p>指導すべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること、その予防には、個人的及び社会的な対策を行う必要があること 			<p>⑤</p>	<p>〈知・理⑤〉 (学習活動3) 感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること、その予防には、個人的及び社会的な対策を行う必要があることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。</p> <p>【観察・ワークシート】</p>

7 本時の学習と指導 (2/6)

(1) ねらい


- 生活習慣病と日常の生活行動について資料等で調べたことを基に、仲間と情報を共有し、課題解決の方法を見つけることができる。 【思考・判断】
- 生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりすることができる。 【知識・理解】

(2) 資料及び準備するもの

スクリーン、プロジェクター、ノートパソコン、ワークシート、模造紙 (グループ活動用)、資料

(3) 展開

時間	学習の内容・活動	指導上の留意点 (○指導 ◆評価規準)
導入 5分	1 挨拶・出席確認。	○挨拶・出席の確認をおこなう。 ○グループ学習用の席に分かれていることを確認する。 ○パワーポイント画面を提示しながら説明をする。 ○本時の学習の内容、流れを理解させる。
	2 本時の説明と確認。	
課題 「がん」の予防と配慮について考えよう		
展開 35分	3 前時の振り返りをする。 ・がんの種類について ・発生と流行について ・起こる原因について ・検査と治療について	○前時の内容「がん」の基礎知識について要点を絞って、スライドで確認をさせる。
	4 がんと生活習慣の関係について考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【発問】 自分自身ががんにかかることを前提としたときに、がんにかかることを完全に防ぐことはできると思いますか。</div> <ul style="list-style-type: none"> 個人の考えをワークシートに書く。 生活習慣との関係性についてワークシートに穴埋めをする。 「がんを防ぐための新12か条」を確認する。 	○ワークシートに自分の考えを記入させる。 ○自分自身ががんにかかる可能性があることを考えさせて、がんを身近に感じさせる。 ○がんは必ず防ぐことはできないが、進行を遅らせたり発症を遅らせたりできる可能性があるため、予防だけではなく配慮する方法もあることを理解させる。 ○資料を読み取り、ワークシートの穴埋めを行わせる。 ○ワークシートに取り組みながらがんの予防と生活習慣が関係していることを理解させる。
	5 がんの予防と配慮について考える。 ・一次予防と二次予防について理解をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【発問】 日常の中でどんなことに配慮して生活していれば「がん」を防ぐことができるか考えてみよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> グループで話し合い、考えをワークシートに書く。 	○一次予防は発病自体を防ぐこと、二次予防は早期に発見し、早期に治療をすることであることを理解させる。 ○がんの予防には、自分自身の生活習慣や生活環境が大きくかわること、定期的な健康診断やがん検診などが必要なことをおさえる。 ○机間巡視をして学習の援助を行う。 ○個人で活動するだけでなく、グループで対話し意見を出し合

	 <p>6 各ライフステージあった予防と配慮を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5で学習したことを共有しグループで考え、ワークシートと模造紙にまとめる。 <p>【発問】 各ライフステージに分けて、事前にできる配慮と予防について考えてみよう。</p> <p>【指導すべき内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など調和のとれた健康的な生活を続けること ・定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であること <p>7 作品の発表をする。</p>	<p>うように促す。</p> <p>◆生活習慣病と日常の生活行動について資料等で調べたことを基に、仲間と情報を共有し、課題解決の方法を見つけている。 【思考・判断】</p> <p>「努力を要すると判断できる状況(C)」の生徒への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> △学習方法を再確認させる。 △仲間と関わることをうながす。 △箇条書きで書いて良いことを伝える。 <p>「十分満足できると判断される状況(A)」の生徒の具体的な姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えや情報を仲間と共有し、意見を出し合っている。 <p>○机間巡視をして学習の援助を行う。</p> <p>○5で学習したことを共有し、模造紙にまとめさせる。</p> <p>○ライフステージに分けて、がんの予防や配慮を考えさせることで、若いころからの積み重ねで発症や進行を遅らせることができる可能性が高まることを理解させる。</p> <p>○ライフステージによって予防と配慮する方法が違うことやがんに対して、さまざまな対策や予防が取られていることを理解させる。</p> <p>◆生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。 【知識・理解】</p> <p>「努力を要すると判断できる状況(C)」の生徒への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> △学習方法を再確認させ、資料や前時のプリントも使用して良いことを伝える。 △仲間と関わることをうながす。 △グループの中で分からないことを共有させる。 <p>「十分満足できると判断される状況(A)」の生徒の具体的な姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えをまとめ、他者へ発言したり具体例を挙げたりすることができている。 <p>○作品を隣のグループの前で3分程、発表をさせる。</p>
<p>終末 10分</p>	<p>8 課題に対するまとめをワークシートの記入をする。</p> <p>9 本時の反省・次回の予告。</p> <p>10 挨拶をする。</p>	<p>○がんについて正しい知識を身に付け、正しく理解をすることが大切であることを伝える。</p> <p>○課題に対する答えと理由を、本時の学習内容と既有知識をもとに考えさせ、ワークシートに記入させる。</p> <p>○本時の感想を記入させる。</p> <p>○本時の活動の様子について評価する。</p>

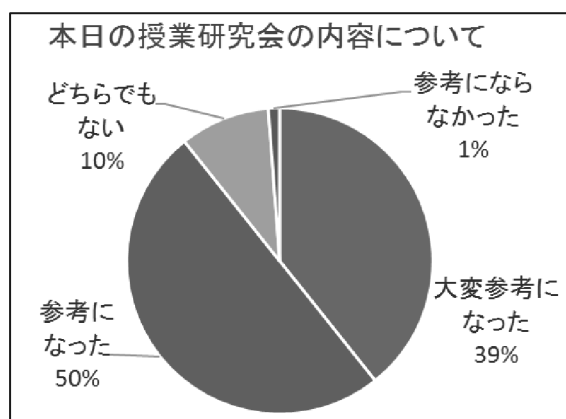
【本日の授業研究会の内容について】

「大変参考になった」「参考になった」

<理由>

○授業内容について

- ・まとめの部分の「若いころからの積み重ね」というところが、高校生の授業として大切なまとめだと感じた。
- ・勤務校（特別支援学校）は、本人の生活習慣以前に、り患している生徒や、治療を越えて障がい者になった生徒もいるので、どのような着眼点をもって「がん教育」を行うかを考えることができた。
- ・「がん教育」をどこの単元に入れたらよいかわからなかったので「生活習慣病」のところに関連付けていたのが参考になった。
- ・がんという病気について学習するだけでなく、関連している単元や生活習慣に基づいて授業展開をしていたのが参考になった。
- ・生徒たちが意見を出し合いながら、自分のライフステージについて「がんの予防」というものを具体的に学んでいる様子がうかがえた。
- ・ライフステージに応じて、自分がどのような生活習慣を身に付ける必要があるのか、検診が重要であるのかについて生徒が主体的に学んでいた。
- ・各ライフステージに応じた予防の仕方、なぜそのことが必要なかを自らが考えて行動することの大切さを自分自身が改めて考えることができた。
- ・複雑な要因が絡むがんであるが、日常生活に当てはめたり、ライフステージに応じて具体的に何をすべきかを考えたりしているところが良かった。
- ・ライフステージでまとめるところにもう少し時間をかけて、生徒の多くの考えを聞くことで、深く掘り下げられると思った。
- ・ライフステージの表を活用し、生徒たちの意見を聞きながらすべて埋まった形を提示したら、より知識が深まるのではないかと思った。
- ・日本人の死亡原因の中で最も多いことを確認したうえで、単に予防が必要であるということ伝えるのではなく、ライフステージ別に予防策を考えるというのが勉強になった。
- ・がん教育のみで、1時間授業を行うという発想がなかったので、新鮮だった。自分でも一本作ってみようと思う。
- ・がんの何を伝えていくかという最終目標を自分なりに研究していく必要があると感じた。
- ・今後「がんにならない」「なったときにどうするか」「治ったときにどうするのか」を教えることが大切だと思った。
- ・事前のアンケートの回答に沿ってがんについての知識や自分の考えをもてる授業だった。
- ・導入の場面で前回の復習を取り入れていて、今まで学んだことをすべて含めて発表している生徒の姿を見て、指導が一人一人に行き届いているのを感じた。
- ・ねらいである「若いころの生活習慣を意識させる」というものに向けた手立てが工夫されていて大変勉強になった。
- ・がんと聞いても身近に感じられない生徒が多くいる中で、いかにがんが生活習慣と関連してくるか段階を踏んで考えさせていたので、生徒も理解しやすいと感じた。
- ・「がん教育」がテーマだが、最後のまとめる活動を工夫することで、「現代社会と健康」の分野の多くが網羅できると思った。
- ・前時の内容を基に知識や思考を深めることのできる授業であった。
- ・グループワークのあとの発表の形も参考になった。
- ・生徒たちが考えやすい、発表しやすい環境づくりが工夫されていた。
- ・がん経験者として、初めて学校の授業に参加させていただき、学校教育でのがん教育の行い方、考え方をみることができた。



○生徒について

- ・いろいろな立場になって物事を考えられていたのがとてもよかった。
- ・たくさんの参会者がいる中で、自分の意見をしっかり言えていたのがすばらしい。
- ・グループワークにおいて、どの班も活発に話し合い活動をしていた。生徒が内容をしっかりと理解し

ているからこそだと思った。

- ・活発に話し合いをしていて、ほかの生徒の意見を聞きながら発表しているのもよかった。

○教材・教具について

- ・パンフレットなど豊富な資料の活用が参考になった。
- ・教材研究をたくさんされていて資料が豊富だったため、生徒に興味・関心をもたせることができていた。
- ・スライドがカラーでわかりやすかった。
- ・具体的なデータや資料、パワーポイントの工夫によって、生徒たちがより主体的に学習に取り組んでいた。
- ・ワークシート、ICT、模造紙といった様々なツールを使い、生徒にわかりやすく伝えているのがとてもよくわかった。
- ・生徒が発言した内容がすぐにパワーポイントに反映されていたのがよかった。

○研究協議について

- ・いろいろな意見や参考事例を聞いてよかった。
- ・教科等横断的な取組等を聞くことができ充実した協議だった。
- ・授業で大切なことや生徒たち自身が危機感をもつためにはどうすればよいかを話し合い、明確な答えは出なかったが、授業者が意識して授業をすることの大切さを実感した。
- ・指導者の先生のお話は大変感銘を受けた。
- ・他校の現状や課題を共有でき、参考になった。

【がんに関する授業を実施するにあたっての課題】

- ・健康な生活習慣を確立するために具体的に何が出来るか。その具体的に考えたことを実行していく、自己決定できる情報を学べるかが課題。
- ・若い年齢でがんになることも少なくないのでそこに着目して伝えていきたい。
- ・「自分にはあまり関係ない」と思う生徒が多いと考えられるので、いかに関心をもたせるかが課題だと思う。
- ・身近にがんの罹患者がいる場合や、本人ががんを経験している場合、周りにがんが原因で亡くなってしまった方がいる場合等の配慮。
- ・家族ががんになり患っていて、怖いというイメージをもっている子に対しての指導。
- ・教員ががんに対する正しい知識を習得すること。
- ・養護教諭との連携。
- ・カリキュラム的に時間の確保が難しい。(現行の教科書では確実に時間を確保できない。)
- ・教員同士が共通の認識をもって指導にあたること。
- ・各専門機関との連携。
- ・今と将来の生活習慣がどうがんに関係するか生徒がイメージできず、他人事とっていてがんが身近であることや生活習慣が関わっていると認識していないこと。
- ・がんは、長い年月を経て発病するので、高校生の頃からきちんとした生活習慣を身に付けさせることが本校の課題だと思った。
- ・見えない敵(がん)の見える化。
- ・がんになることを完全に防ぐことはできないが、なるべくならないように努力することはできるということを生徒に知ってもらいたいと感じた。
- ・どこまで取り上げるのか、深く学ばせるためにはどうすればよいのかを考えたい。
- ・養護教諭として資料や情報提供の仕方。
- ・講師を呼んでやってもらうときの手順。
- ・家庭の状況をお互いに話さなくてはいけないこと(食事について等)に抵抗がある生徒もいるため、配慮が必要。
- ・グループワークにもう少し時間をかけるとよかった。
- ・今後生徒たちが学んだことを自身の生活でどう実践していくか。
- ・保健だけでは授業時間が足りない。
- ・がん経験者の方を講師として招きたいが、費用の問題から呼べても一回で、それだと学年全体での授業となってしまう、他人事としてしか聞かない生徒が出てしまう。
- ・小・中・高の系統性。
- ・知識だけでなく、思考力・判断力を身に付け、健康に良い生活習慣を選択して行動に移せる資質を身に付けさせること。

IV 令和元年度埼玉県がん教育推進連絡協議会について

令和元年度埼玉県「がん教育推進連絡協議会」設置要綱

(設置)

第1条 学校におけるがん教育の充実を図るため、「がん教育推進連絡協議会」(以下「協議会」という。)を設置する。

(事業)

第2条 協議会は、次の各号に掲げる事業を所掌する。

- (1) がん教育総合支援事業を推進するための支援体制の協議、検討
- (2) がん教育総合支援事業を推進するために係るその他の取組

(組織)

第3条 協議会は、別表に掲げる委員をもって構成する。

- 2 協議会に委員長を置き、埼玉県教育局県立学校部保健体育課長をもって充てる。
- 3 協議会に副委員長を置き、委員の中から互選する。

(運営)

第4条 委員長は、協議会を総括する。

- 2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(任期)

第5条 委員の任期は、令和2年2月28日までとする。

(会議)

第6条 委員長は、協議会を招集し、議長を務めるものとする。

- 2 委員長が必要と認めるときは、別表に掲げる者以外の県及び市町村等、関係機関の職員の出席を要請することができる。

(事務局)

第7条 協議会は、会務を処理するために、事務局を埼玉県教育局県立学校部保健体育課内に置く。

(経費)

第8条 協議会の経費は文部科学省から交付される委託経費をもって充てる。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定めるものとする。

附 則

この要綱は、令和元年6月5日から施行する。 ※国との契約の日とする。

別 表 (第3条関係) 委員

学識経験者
医師
がん経験者
疾病対策課副課長
校長
教諭
養護教諭
市町村教育委員会指導主事
保健体育課長
保健体育課主席指導主事

令和元年度 がん教育総合支援事業

(文部科学省委託事業)

背景

- ・「がん対策推進基本計画」では、「がん患者を含む国民が、がんを知り、がんと向き合い、がんに関わることに負けない社会」をめざすこととしている。
- ・学校における健康教育の中でも、国民の2人に1人がかかる「がん」については重要な課題であり、国民の健康に関する基礎的な教養として必要不可欠。

年間約36万人以上の国民ががんで死亡している。
埼玉県のがん検診受診率が50%未満である。

課題

- ・がんについての正しい知識やがん患者に対する理解が不十分
- ・教材や外部講師を活用した指導の在り方、方法等の充実が必要

そこで、

がん教育に関する計画を作成し、作成した計画に基づき、がん教育に関する多様な取組を実施することにより、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識及び命の大切さに対する理解を深める。

がん教育推進連絡協議会

- ・がん教育に関する計画作成について指導・助言をする。
(教科、授業展開方法の検討 ・ 外部講師の活用 ・ 関連機関との連携の模索等)
- ・取組結果について、成果を検証する。
※がん教育連絡協議会に報告された実施結果を冊子にまとめ、県内の市町村教育委員会、県立学校等へ配布

【構成委員22名】

学校関係者、学校医、医療
機関関係者、学識経験者、
がん経験者、行政関係者等

がん教育指導者研修会

○がん教育を推進していく教職員・外部指導者を対象とした「がん教育指導者研修会」を開催し、効果的ながん教育の在り方についての研修を行う。

がん教育授業研究会

○小学校、中学校、高等学校において「がん教育授業研究会」を開催し、効果的な指導方法の検討と指導資料の作成及び授業モデルの普及を行う。

健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理し、
がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識及び命の大切さに対する理解を深める。

2 令和元年度がん教育推進連絡協議会委員名簿

	推薦団体・推薦関係課・教育委員会	氏名	職名	所属
1	埼玉大学	七木田文彦	准教授	埼玉大学教育学部
2	一般社団法人埼玉県医師会	丸木 雄一	医師	埼玉精神神経センター
3	がん専門医	儀賀 理暁	教授	埼玉医科大学総合医療センター
4	がん経験者	近藤 明美	社会保険労務士	近藤社会保険労務士事務所
5	埼玉県公立小学校校長会	飯塚 義浩	校長	春日部市立粕壁小学校
6	埼玉県中学校長会	加松 浩	校長	熊谷市立富士見中学校
7	埼玉県高等学校長協会	梶尾 勝則	校長	県立越ヶ谷高等学校
8	埼玉県小学校体育連盟	栗田 颯	教諭	深谷市立深谷西小学校
9	埼玉県中学校体育連盟	中村 美紀	教諭	松伏町立松伏中学校
10	埼玉県高等学校保健体育研究会	梅田 直希	教諭	県立飯能高等学校
11	埼玉県養護教諭会	野上 弘恵	養護教諭	春日部市立豊春小学校
12	埼玉県養護教諭会	根岸 幸代	養護教諭	熊谷市立荒川中学校
13	埼玉県養護教諭会	米本 真弓	養護教諭	県立杉戸農業高等学校
14	埼玉県養護教諭会	川端 奏子	養護教諭	県立けやき特別支援学校
15	授業検討会代表（小学校）	亀森 智子	主幹	川越市教育委員会教育指導課
16	授業検討会代表（中学校）	新井 知章	課長補佐兼指導主事	深谷市教育委員会学校教育課
17	県保健医療部疾病対策課	手塚 明正	副課長	県保健医療部疾病対策課
18	県立学校部保健体育課	伊藤 治也	課長	県教育局県立学校部保健体育課
19	県立学校部保健体育課	駒崎 弘匡	主席指導主事	県教育局県立学校部保健体育課

3 令和元年度がん教育授業検討委員会 名簿

○小学校、中学校、高等学校において、がん教育を具体的に展開するための内容等を検討する。

	推薦団体・推薦関係課・教育委員会	氏名	職名	所属
1	埼玉大学	七木田文彦	准教授	埼玉大学教育学部
2	がん専門医	儀賀 理暁	教授	埼玉医科大学総合医療センター
3	埼玉県小学校体育連盟	栗田 颯	教諭	深谷市立深谷西小学校
4	埼玉県中学校体育連盟	中村 美紀	教諭	松伏町立松伏中学校
5	埼玉県高等学校保健体育研究会	梅田 直希	教諭	県立飯能高等学校
6	埼玉県養護教諭会	野上 弘恵	養護教諭	春日部市立豊春小学校
7	埼玉県養護教諭会	根岸 幸代	養護教諭	熊谷市立荒川中学校
8	埼玉県養護教諭会	米本 真弓	養護教諭	県立杉戸農業高等学校
9	埼玉県養護教諭会	川端 奏子	養護教諭	県立けやき特別支援学校
10	授業検討会代表（小学校）	亀森 智子	主幹	川越市教育委員会教育指導課
11	授業検討会代表（中学校）	新井 知章	課長補佐兼指導主事	深谷市教育委員会学校教育課
12	授業研究者（小学校）	山中 雄一	教諭	川越市立霞ヶ関小学校
13		嶋田恵美子	教諭	
14		加藤 佳代	養護教諭	
15	授業研究者（中学校）	石山 絵理	教諭	深谷市立川本中学校
16		朽原 若菜	養護教諭	
17	授業研究者（高等学校）	廣瀬 恵美	教諭	県立志木高等学校